

病 院 年 報

第 4 号

令和 5 年度 (2023 年度)



医療法人伯鳳会

大阪中央病院

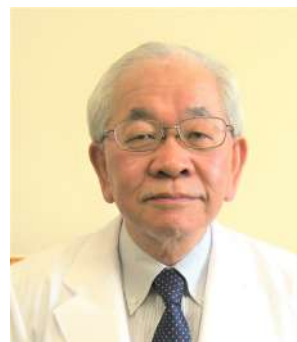
HAKUHOKAI Osaka Central Hospital

目 次

大阪中央病院 2022 年度年報の発刊にあたって	1
伯鳳会グループ理念	2
沿革	3
概要	5
基本診療料施設基準届出状況 特掲診療料施設基準届出状況	7
職員構成	8
組織図	9
各種委員会	10
各部門の活動	
内科	11
消化器内科	15
循環器内科	17
外科	19
整形外科	26
皮膚・形成外科	29
泌尿器科	30
婦人科	34
眼科	38
耳鼻咽喉科	39
放射線科	40
麻酔科	42
リハビリテーション科	43
薬剤課	44
臨床検査課	46
臨床工学課	48
栄養課	50
看護部	52
健康管理センター	55
医事課	59

大阪中央病院 2023 年度

年報の発刊にあたって



院長 弓場 健義

2023 年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延が 4 年目になり、次第に落ち着きを取り戻し、感染症分類が 2 類より 5 類になり、日常診療が戻ってきた 1 年間でした。実際、新型コロナウイルス感染対応策の徹底、ワクチン接種の普及等々により日常診療を取り戻しました。我々、医療人はどのような状況においても粛々と医療業務をこなさなければなりませんし、実際、当院においては新型コロナウイルス感染以前の外来患者数、入院患者数、手術患者数を確保するに至りました。しかしながら、今後の医療状況はまだまだ流動的であり、常に敏感に状況を察知し対応することが求められます。我々は常にデータを注視し、それに基づいて診療体制を再構築する必要があると考えております。そのためには、診療実態、治療成績を振り返り、現状を把握しつつ、将来展望を見据える必要があると考えられます。また、我々自身の治療成績を常日頃から公けにし、学術活動等を通じて第三者の評価を受け、治療成績の向上に繋げる努力が求められると考えております。

本誌は各診療科、健康管理センター、各部門からの 2023 年 1 年間の活動報告、新規取り組み、今後の目標等を記載し、これらを職員全員で共有することを目的として刊行され、今回第 4 号をお届けする運びとなりました。

本誌を手にしていただいた皆様には、お時間の許す時にご高覧いただき、ご批判、ご意見をいただければ幸いです。

伯鳳会グループ理念

『平等医療・平等介護』

- 1、我々は健康サービスの水準を高く保ち、いつも最新の健康サービスが提供できるよう研鑽し、最良の設備、環境を整えます。
- 2、我々はお客様に愛情と尊敬を持って接し、お客様にとって何が最良かを一緒に考え実践します。
- 3、我々は地域社会に安心を提供し、いつも親近感のわく、あたたかい健康サービスを行います。
- 4、我々は他の健康サービスを行う方々と連携し、地域の方々の健康と生活を守ります。
- 5、我々は健康サービスを通じて自己実現を図り、もって多大なる社会貢献を果たすと共に、自らも幸福となります。

沿革

昭和 19 年 10 月 1 日	大同生命保険相互会社直営の「大同病院」(昭和 3 年開設)を継承し、 「健康保険組合連合会 大阪中央病院」と改称 内・外・産婦人・耳鼻咽喉・小児・眼・放射線の各科 110 床で開設 初代院長 松岡 武次郎
昭和 21 年 11 月	院長 林 茂雄
昭和 24 年 3 月	皮膚科・泌尿器科・歯科新設
昭和 29 年 8 月	病床数変更 110 床から 120 床へ
昭和 30 年 9 月	附属准看護婦学校設立許可(校長 林 茂雄院長兼務)
昭和 33 年 9 月	総合病院承認
昭和 34 年 4 月	短期人間ドック(1泊2日方式)実施病院指定(2床)
昭和 36 年 3 月	北館(地上4階 塔屋1階・地下1階 4,337 m ²)建設
昭和 36 年 5 月	病床数変更 120 床から 312 床へ
昭和 39 年 10 月	産科センター完成(ベビーベッド13床)
昭和 48 年 3 月	整形外科新設
昭和 50 年 3 月	手術棟改築(北館5階建設)
昭和 51 年 2 月	中央材料室、病理検査室、消毒、洗濯室完成
昭和 54 年 2 月	南館6階完工、中央検査室移転
昭和 54 年 3 月	南館5階に人間ドック棟完成、5床から12床へ
昭和 55 年 10 月	増改築に伴う病床数変更 312床から290床(人間ドック12床含)
昭和 60 年 4 月	院長 戸田 良郎
平成 3 年 4 月	院長 榎本 巧 総合健康管理センターを開設
平成 6 年 8 月	産婦人科(産科閉鎖、婦人科のみとする) 小児科閉鎖
平成 8 年 5 月	院長 正岡 昭
平成 9 年 8 月	新病院開設許可 基本設計完了
平成 9 年 9 月	新病院工事着工
平成 11 年 4 月	地域医療連絡室設置
平成 12 年 3 月 1 日	新病院定礎式
平成 12 年 6 月 5 日	健康保険組合連合会 大阪中央病院 開院 (大阪市北区梅田3丁目3番30号 地上13階・地下2階 塔屋2階 駐車場77台) 5病棟、病床数232床、手術室4室 診療科目 内科・消化器内科・循環器内科・外科・整形外科 皮膚 形成外科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科 麻酔科 全12科

平成 12 年 8 月	一般病棟 I 群 入院基本料 2
平成 14 年 4 月	健康管理センター 日本総合健診医学会優良施設認定
平成 14 年 5 月	院長 大橋 秀一
平成 14 年 10 月	病床数変更 232 床から 227 床へ
平成 16 年 7 月	DPC 試行的適用病院として包括評価算定方式導入
平成 16 年 10 月	日本医療機能評価機構認定 (Ver4.0)
平成 17 年 10 月 1 日	創立 60 周年記念式典
平成 19 年 2 月	一般病棟入院基本料 10 対 1 から 7 対 1 へ 病床数変更 227 床から 181 床へ
平成 19 年 4 月	新健康管理センター開所記念式典・内覧会
平成 21 年 10 月	日本医療機能評価機構認定 (Ver6.0)
平成 23 年 1 月	病院基幹システム・健診システム入替
平成 25 年 5 月	9 階病棟および 6・8 階改修 (健診フロアへ) 病床数変更 181 床から 143 床へ
平成 25 年 6 月	泌尿器科 ロボット支援手術装置 ダヴィンチ導入
平成 26 年 4 月	診療録管理体制加算 1
平成 26 年 7 月	医師事務作業補助体制加算 1 健康管理センター 人間ドック健診施設機能評価認定
平成 27 年 7 月	外科に肛門外科 新設
令和元年 10 月 1 日	創立 75 周年記念式典
令和 2 年 4 月	院長 根津 理一郎
令和 2 年 7 月 1 日	健康保険組合連合会から医療法人伯鳳会へ事業譲渡 理事長 古城 資久
令和 3 年 1 月	整形外科関節手術 Mako(メイコー) ロボティックアーム導入
令和 3 年 2 月	電子カルテ導入 (ソフトウェア・サービス)
令和 3 年 4 月	地域連携・入退院支援センター (周術期管理センター (ペリオ)) 開設 麻酔科外来開始
令和 4 年 3 月	放射線科 CT、MRI 更新入替
令和 5 年 4 月	院長 弓場 健義
令和 6 年 3 月	泌尿器科 ロボット支援手術装置 「ダヴィンチ X」 へ更新

概 要

(1)	名 称	医療法人伯鳳会 大阪中央病院
(2)	所 在 地	大阪府大阪市北区梅田3丁目3番30号
(3)	開 設 者	医療法人伯鳳会 理事長 古城 資久
(4)	管 理 者	病院長 弓場 健義
(5)	開 設 年 月 日	令和2年7月1日
(6)	敷 地 面 積	2,528.64 m ²
(7)	建 設 面 積	1,632.55 m ²
(8)	延 床 面 接	22,856,831 m ²
(9)	構 造	S造、SRC造、RC造 地上13階・地下2階・塔屋2階
(10)	施 設	内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、 皮膚・形成外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、脳神経外科 全14科 病棟数 3病棟 病床数 143床 病室 特室1室・個室30室・二人室3室・三人室6室 四人室21室・重症室(2人)2室
(11)	施 設 基 準	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1) 入院時食事療養(I)
(12)	駐 車 場	39台
(13)	病院施設認定一覧	<ul style="list-style-type: none">・日本消化器病学会専門医制度認定施設・日本肝臓病学会認定施設・日本循環器研修・関連施設・日本外科学会外科専門医制度修練施設・日本消化器外科学会専門医修練施設・日本消化器内視鏡学会認定施設・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設・日本大腸肛門病学会認定施設・日本がん治療認定医機構認定研修施設・日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設・臨床肛門病技能認定施設・日本炎症性腸疾患学会指導施設・日本整形外科学会専門医制度修練施設・日本産科婦人科学会専門研修連携施設・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設・日本泌尿器科学会専門医教育施設

- ・ 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・ 日本総合健診医学会専門医研修施設
- ・ 日本総合健診医学会優良総合健診施設
- ・ 人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・ 大阪国際がんセンター連携登録医療機関

基本診療料施設基準届出状況

施設基準名	
1	一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
2	情報通信機器を用いた診療
3	診療録管理体制加算1
4	医師事務作業補助体制加算2（20対1）
5	急性期看護補助体制加算（25対1）（看護補助者5割未満）
6	看護職員夜間配置加算（12対1 配置加算1）
7	療養環境加算
8	重症者等療養環境特別加算
9	医療安全対策加算2・医療安全対策地域連携加算2
10	感染対策向上加算3・連携強化加算・サーベイランス強化加算
11	術後疼痛管理チーム加算
12	患者サポート体制充実加算
13	後発医薬品使用体制加算1
14	病棟薬剤業務実施加算1
15	データ提出加算（データ提出加算2・ロ・提出データ評価加算）
16	入退院支援加算（加算2）・入院時支援加算
17	認知症ケア加算（加算3）
18	せん妄ハイリスク患者ケア加算
19	排尿自立支援加算
食	入院時食事療養/生活療養（Ⅰ）

特掲診療料施設基準届出状況

施設基準名	
1	糖尿病透析予防指導管理料
2	婦人科特定疾患治療管理料
3	一般不妊治療管理料
4	ニコチン依存症管理料
5	がん治療連携指導料
6	薬剤管理指導料
7	医療機器安全管理料 1
8	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
9	BRCA1/2遺伝子検査
10	H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
11	検体検査管理加算（Ⅰ）
12	検体検査管理加算（Ⅱ）
13	ロービジョン検査判断料
14	コンタクトレンズ検査料1
15	画像診断管理加算1
16	画像診断管理加算2
17	C T 撮影及びMR I 撮影
18	冠動脈C T 撮影加算
19	心臓MR I 撮影加算
20	乳房MR I 撮影加算
21	無菌製剤処理料
22	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
23	呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）
24	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
25	仙骨神経刺激装置埋込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
26	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
27	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
28	大動脈バルーンパンピング法（I A B P 法）
29	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
30	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
31	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
32	人工尿道括約筋植込・置換術
33	精巣内精子採取術
34	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
35	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
36	腹腔鏡下仙骨腫固定術
37	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
38	麻酔管理料（Ⅰ）

職員構成

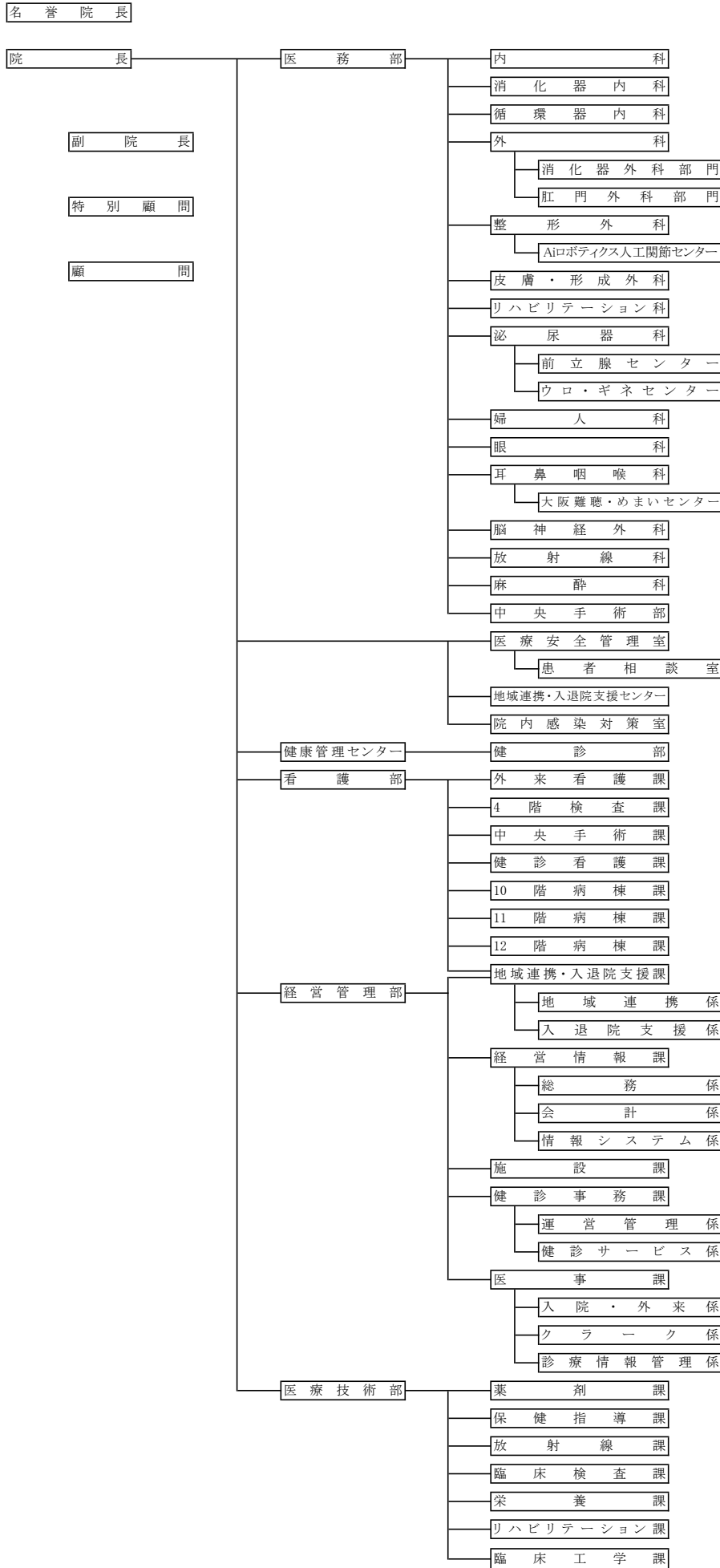
令和6年4月1日現在

区分	正職員								パートタイム職員								非常勤			合計
	医師	正看	保健	看助	医技	洗浄	事務	小計	医師	正看	看助	医技	洗浄	事務	小計	医師	医技	小計		
医務部	内科	1						1								7		7	8	
	消化器内科	4						4	1						1				5	
	循環器内科	3						3								3		3	6	
	外科	10						10								3		3	13	
	整形外科	4						4								3		3	7	
	婦人科	3						3								6		6	9	
	皮膚・形成外科	1						1								2		2	3	
	泌尿器科	5						5											5	
	耳鼻咽喉科	1						1											1	
	脳神経外科															4		4	4	
	眼科	1						1								4		4	5	
	放射線科	1						1								4		4	5	
	麻酔科	5						5											5	
リハビリテーション科	(1)																			
健管C	健診部	7						7	5						5	38		38	50	
医療技術部	薬剤課					10	1	11											11	
	保健指導課			6				6											6	
	放射線課					19		19											19	
	臨床検査課					37		37			5			5	2	6	8		50	
	栄養課					3		3											3	
	リハビリテーション課					6		6											6	
	地域連携入退院支援課		3			1	4	8											8	
臨床工学課					3		3											3		
看護部	看護部長		1					1											1	
	外来看護課		29		4			33	1	1					2				35	
	4階検査課		7					7											7	
	中央手術課/中央材料室		16				6	22											22	
	健診看護課		8		1		1	10	12				4		16				26	
	10階病棟		24		3			27											27	
	11階病棟		23		3			26											26	
12階病棟		27		5			32											32		
経営管理部	経営管理部						1	1											1	
	経営情報課							11					3	3					14	
	施設課							2					3	3					5	
	健診事務課							48	48					5	5				53	
	医事課							36	36										36	
合計	46	138	6	16	79	7	103	395	6	13	1	5	4	11	40	76	6	82	517	

※()は兼務のため小計・合計に含めず

組織図

令和6年4月1日



各種委員会

- (1) 労働安全衛生委員会
- (2) 院内感染防止対策委員会
- (3) 感染対策部委員会
- (4) 業務改善委員会
- (5) 薬事委員会
- (6) 治験審査委員会
- (7) 栄養委員会
- (8) 輸血療法委員会
- (9) DPC検討委員会
- (10) 医療ガス安全管理委員会
- (11) 中央手術部委員会
- (12) 診療情報管理委員会
- (13) 広報委員会
- (14) 医療安全管理委員会
- (15) 情報システム委員会
- (16) Reアクション委員会
- (17) 医療倫理委員会
- (18) 年報編集委員会
- (19) 褥瘡対策委員会
- (20) 図書運営委員会
- (21) 福利厚生委員会
- (22) 外来・病床運営委員会
- (23) 個人情報保護委員会
- (24) 教育・研修委員会
- (25) クリニカルパス委員会
- (26) レセプト審査委員会
- (27) 臨床検査適正化委員会
- (28) 職員食堂委員会
- (29) 接遇委員会
- (30) 勤務医(その他)負担軽減対策委員会
- (31) 医療放射線管理委員会
- (32) 機器購入委員会
- (33) 化学療法レジメン運営委員会
- (34) 災害対策委員会
- (35) ハラスメント委員会
- (36) 病院危機管理対策委員会

内科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

常勤医 1 名と非常勤医 6 名（計 糖尿病専門医師 3 名含む）、健診センター所属医 3 名（糖尿病専門医師 1 名含む）で、糖尿病とその合併症の精査加療および疾患管理を中心にして、肥満症やメタボリック症候群 (MetS)、脂質異常症、脂肪肝（他の肝障害を含）、高尿酸血症、甲状腺疾患、高血圧、貧血、呼吸器疾患の外来診療を主として行なっております。特に糖尿病やその合併症および代謝疾患の管理を最新の治療薬剤や専門デバイスを用いて行なっており、各コメディカルスタッフ（糖尿病療養指導士 6 名、糖尿病認定看護師 1 名）と協同し、より良質な疾患管理に努めています。また、当院検診センターとの医療連携も強固であり、本年度も多くの患者往来がみられました。2021 年度からは呼吸器内科外来の拡充も行い、主に気管支炎を中心とした外来フォローや健診からの胸部画像異常の再検査なども行なっております。あと新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を含めた有症状（発熱、呼吸器症状、全身倦怠感など）の外来対応にも内科医として協力しております。内科外来部門では時間/空間的感染隔離をもって通常外来とのゾーニングを行っており、安心安全な診療体制を確保しています。

『2024 年度の目標』

2024 年度も引き続き現状を維持しつつ疾患管理の質の向上に努めてまいります。

2. 診療実績

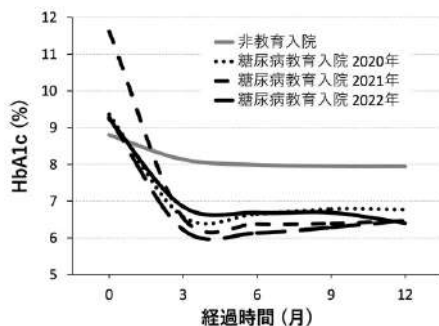
定期外来通院フォロー患者数：5,260 名（おおよそ 2~3 ヶ月間隔で外来フォロー中です）

有症状の外来対応（職員検査も含）：484 名

糖尿病 平均 62.1 歳	糖尿病腎症	肥満症 (MetS 含)	脂質異常症	高尿酸血症	甲状腺	貧血	呼吸器
1,910 名 (1 型 43 名)	870 名	524 名	2,099 名	912 名	313 名	403 名	780 名

[平均 HbA1c 6.99±1.28%]

糖尿病などの生活習慣病では、初期の治療介入が非常に重要であるという概念に基づき、当科では約 1 週間（5 泊 6 日）の糖尿病教育入院や血糖コントロール不良症例への入院精査加療を実施



しています。当科糖尿病教育入院は退院後の約 1 年間は学会推奨の HbA1c < 7% を維持できます。治療強化の最適化やクリニカルイナーシャ（糖尿病治療の停滞）の是正を早期から行うことで治療内容のレベルアップに糖尿病チーム (DeMteam) として取り組んでいます。2024 年現在、教育入院プログラムの再構築を計画しており、完成次第、新たな教育入院を遂行予定です。

3. 業績

【学会発表】

1. 片山弥生、岡田美織、武内真有、山木香名、明神真希子、南 雄三、美内雅之
糖尿病患者における食事内容と体組成との関連性の検討. 第 23 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2020 年 1 月 24 日～1 月 26 日. 国立京都国際会議場 (京都府) .
2. M Miuchi, A Hatano, M Takeuchi, M Okada, Y Katayama, S Tsuruoka, C Takeuchi.
Moderate-intensity activity may reduce both the body fat composition and pancreatic glucagon secretion in type 2 diabetes. 56th Annual Meeting of European Association for the Study of Diabetes (EASD). 2020 年 9 月 21 日～25 日. via Web presentation (Vienna, Austria) .
3. 美内雅之、山木香名、明神真希子、武内真有、片山弥生、岡田美織、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、南 雄三. 持効溶解型インスリン注射薬と少量 GLP-1 受容体作動薬の併用療法の有用性の検討. 第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル (滋賀県) .
4. 片山弥生、岡田美織、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、山木香名、明神真希子、武内真有、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. 摂取栄養素の変化と臨床データとの関連性の検討
第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル(滋賀県) .
5. 鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、片山弥生、岡田美織、武内真有、明神真希子、山木香名、南 雄三、美内雅之. 糖尿病治療薬剤の投与状況からみた Clinical inertia ～その後の観察検討 (約 4 年間) ～. 第 63 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2020 年 10 月 5 日～16 日. 琵琶湖大津プリンスホテル (滋賀県) .
6. 鶴岡早央里、北川克美、長田志織、竹内千里、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、波多野晃弘、武内真有、井上智香子、明神真希子、南 雄三、美内雅之. Clinical inertia の許容範囲の検討 ～2 度の見逃しは HbA1c を悪化させる～. 第 64 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2021 年 5 月 20 日～22 日. 石川県立音楽堂 (石川県) .
7. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、平野弘臣、武内真有、山木香名、明神真希子、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. COVID-19 治癒後の 2 次性サルコペニアの栄養サポート. 第 24 回・第 25 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2022 年 1 月 28 日～30 日. 国立京都国際会館 (京都) .
8. 天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、奥谷美栄子、山木香名、明神真希子、武内真有、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. 2 型糖尿病の血糖管理における外食習慣の影響の検討. 第 65 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2022 年 5 月 12～14 日. 神戸国際会議場 (神戸) .
9. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、鶴岡早央里、長田志織、竹内千里、奥谷美栄子、武内真有、山木香名、明神真希子、波多野晃弘、南 雄三、美内雅之. 低栄養状態の 2 型糖尿病における栄養摂取調査. 第 65 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2022 年 5 月 12～14 日. 神戸国際会議場 (神戸) .

10. 天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、奥谷美栄子、能澤鈴佳、竹内千里、山木香名、明神真希子、武内真有、南 雄三、美内雅之. 2 型糖尿病の外食習慣へのアプローチ ～摂取栄養素量からみた栄養指導～. 第 59 回 日本糖尿病近畿地方会. 2022 年 11 月 5 日. 神戸国際会議場(神戸).
11. 美内雅之、能澤鈴佳、明神真希子、山木香名、武内真有、奥谷美栄子、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生、竹内千里、南 雄三. 糖尿病診療における Clinical Inertia の腎機能への影響 ～約 4 年間の記録から～. 第 59 回 日本糖尿病近畿地方会. 2022 年 11 月 5 日. 神戸国際会議場(神戸).
12. Masayuki Miuchi, Kana Yamaki, Makiko Myoujin, Mayu Takeuchi, Yuzo Minami. Glucagon elevation and insulin resistance might influence HbA1c ascent in Japanese pre-DM with impaired fasting glucose. The Scientific Session of International Diabetes Federation (IDF) Congress 2022. 2022 年 12 月 5 日～8 日. Lisboa Congress Center (Lisbon, Portugal).
13. 片山弥生、天王寺谷彩奈、岡田美織、奥谷美栄子、山辺鈴佳、竹内千里、井上智香子、山木香名、武内真有、南 雄三、美内雅之. 2 型糖尿病患者における Body mass index (BMI) と体細胞量 (Body cell mass, BCM) 別にみた栄養摂取状況の検討. 2023 年 1 月 13 日～15 日. 国立京都国際会館(京都).
14. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、能澤鈴佳、竹内千里、奥谷美栄子、武内真有、井上智香子、山木香名、南 雄三、美内雅之. 糖尿病診療におけるパターンテンプレート(食環境評価)の有用性の検討 ～医療者間での情報差が血糖管理に与える影響～. 第 66 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2023 年 5 月 11 日～13 日. 城山ホテル鹿児島 / 鹿児島県民交流センター / 宝山ホール(鹿児島).
15. 美内雅之、片山弥生、天王寺谷彩奈、岡田美織、能澤鈴佳、竹内千里、奥谷美栄子、井上智香子、山木香名、武内真有、南 雄三. 境界型糖尿病領域におけるインスリンとグルカゴンの HbA1c 情報への影響. 第 66 回 日本糖尿病学会年次学術集会. 2023 年 5 月 11 日～13 日. 城山ホテル鹿児島 / 鹿児島県民交流センター / 宝山ホール(鹿児島).
16. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、山辺鈴佳、竹内千里、奥谷美栄子、山木香名、南 雄三、美内雅之. 肥満糖尿病症例における栄養状態と腎機能変化(年間 eGFR 変化量)の関連性の検討. 2024 年 1 月 26 日～28 日. 国立京都国際会館(京都).

【原著論文】

1. Saori Tsuruoka, Chisato Takeuchi, Ayana Tennoujiya, Miori Okada, Yayoi Katayama, Akihiro Hatano, Masayuki Miuchi. Clinical inertia in the medical care for patients with diabetes mellitus. J Jpn Soc Hosp Pharm. 58(4):389-394., 2022.

【雑誌原稿】

1. 美内雅之、小池眞一郎. 大阪中央病院糖尿病協会「つばき会」～つばきに添える考察～. 大阪糖尿病協会会報誌. 9., 2021.
2. 美内雅之. 生活習慣病の治療介入開始はお早めに!. 「虹」6(11)., 2021.

3. 美内雅之. 兵庫医科大学 糖尿病内分泌代謝免疫学 同門会雑誌., 2022.
4. 美内雅之. コロナ後の生活習慣管理. つばき会 会報誌., 2023.
5. 美内雅之. メディセーフデータシェア データマネジメントシステムの重要性 ～活用事例から～. Case Report., 2023. (テルモホームページ)

【学会受賞】

1. 美内雅之. Chat で質問賞/JDS Award. 第 64 会 日本糖尿病学会年次学術集会. 2021 年 5 月 20～22 日. 石川県立音楽堂 (石川県).
2. 美内雅之、天王寺谷彩奈、岡田美織、片山弥生 (DeM support team, DST) . レシピコンテスト奨励賞 (優秀賞) . 第 24 回・第 25 回 日本病態栄養学会年次学術集会. 2022 年 1 月 28 日～30 日. 国立京都国際会館 (京都).

消化器内科

1. 概要

消化器内科は、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会の指導施設として学会からの認定を受けています。医師スタッフは、顧問2名を含め6名で運営し、大阪大学消化器内科の協力のもと上部・下部の内視鏡診断・治療や、各種消化器疾患の診療に携わっています。

『当科の方針と特徴』

当院は、健康診断受診者が非常に多く、その2次健診（精密検査）を受け診療業務を行いながら、一般診療も行っている。主には、上部および下部消化管疾患（癌，ポリープ，ヘリコバクターピロリ感染症）や肝胆膵疾患（膵嚢胞性疾患，胆石，肝炎）などの診断・治療を行い、診療を行っている。また、当院の肛門外科には非常に多くの痔瘻をはじめとした肛門疾患の診療を行っており、クローン病や潰瘍性大腸炎など炎症性腸疾患（IBD）を患っている方が多く含まれるため、肛門外科と連携しながら、IBDの診断や生物製剤の導入などの治療を行っている。

『2024年の目標』

2024年度も引き続き、内視鏡検査やIBD診療などの診療機能の充実をはかり入院患者を増やすことに務める。

2. 診療実績

	2022年度	2023年度
外来患者総数	6,621	7,034
入院患者総数	318	285
内視鏡件数	2,368件	2,346件
上部消化管	1,289件	1,229件 (EMR 2件)
下部消化管	1,079件 (EMR 255件)	1,117件 (EMR 243件)

3. 業績

【原著】

- 1) Yoshimaru Y, Nagaoka K, Tanaka K, Narahara S, Inada H, Kurano S, Tokunaga T, Iio E, Watanabe T, Setoyama H, Tateyama M, Yoshida K, Tsunoda T, Nakamura Y, Tanaka M, Sasaki Y and Tanaka Y Randomized phase I/II study of vascular endothelial growth factor receptor peptide vaccines for patients with hepatocellular carcinoma, *Hepatol Res* DOI: 10.1111/hepr.13995

- 2) Qin XY, Shirakami Y, Honda M, Yeh SH, Numata K, Lai YY, Li CL, Wei F, Imai K, Takai K, Chuma M, Komatsu N, Furutani Y, Gailhouste L, Xu Y, Aikata H, Chayama K, Enomoto M, Tateishi R, Kawaguchi K, Yamashita T, Kaneko S, Nagaoka K, Tanaka M, Sasaki Y, Tanaka Y, Baba H, Miura K, Ochi S, Masaki T, Matsuura T, Suzuki H1, Shimizu M, Chen PJ, Moriwaki H, and Kojima S
Serum MYCN as a predictive biomarker of prognosis and therapeutic response in the prevention of hepatocellular carcinoma recurrence. *Int J cancer* DOI: 10.1002/ijc.34893

【学会・研究会】

- 1) 佐々木裕：司会、招請講演 3 「Diagnosis and Monitoring of Portal Hypertension」
第 59 回日本肝臓学会総会 2023 年 6 月 15 日、奈良
- 2) 佐々木裕：司会、教育講演 「肝癌全ゲノムシーケンス解析(WGS)の臨床的有用性」
第 59 回日本肝臓学会 2023 年 7 月 28 日、大阪
- 3) 佐々木裕：司会、特別講演 4 「門脈圧亢進症の潮流と課題 –保険適応を含めて」
第 30 回日本門脈圧亢進症学会総会 2023 年 9 月 23 日、東京
- 4) 平田一郎：座長、「クローン病の内科治療戦略」、肛門病変を有するクローン病治療を考える、2022 年 12 月、大阪
- 5) 平田一郎：座長、「特別講演-高齢者潰瘍性大腸炎治療のポイント」、第 37 回関西腸疾患セミナー、2023 年 7 月、大阪
- 6) 平田一郎：座長、「クローン病の地域医療を考える」、IBD 地域医療 Seminar、2024 年 3 月、大阪

【著書】

- 1) 平田一郎：特集 十二指腸・小腸疾患アトラス – 全身性強皮症に伴う小腸病変、消化器内視鏡 36 (4)：612-613、2024
- 2) 平田一郎、中野尚子、中川義仁：特集 十二指腸・小腸疾患アトラス – SLE に伴う小腸病変、消化器内視鏡 36 (4)：608-609、2024

循環器内科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当科の方針でありかつ特徴は、『明るく・楽しく・親切』をモットーとし迅速で安全な医療を行うことです。外来診療ではできる検査(各種エコー検査、負荷心電図やホルター心電図等)は可能な限り当日中に行い、入院診療では短期間の入院となるように努めております。当科では、虚血性心疾患、心不全、心臓弁膜症、不整脈、末梢動脈疾患、生活習慣病、家族性高コレステロール血症および静脈血栓症等の診断と治療を行っています。症状、心疾患の家族歴、冠危険因子、心・頸動脈エコー及び負荷心電図の結果をもとに、虚血性心疾患が疑わしければ冠動脈 CT(急性冠症候群等では省略)を施行します。冠動脈 CT 上有意狭窄が疑われれば、入院して頂き冠動脈造影検査を施行します。造影上有意狭窄があれば、当院ではほぼ全例血管内エコーを使い PCI を行います。ここ最近では年間 200-250 例の PCI を行い、死亡・脳梗塞・緊急手術といった重篤な合併症はありません。発作性上室性頻拍、心房粗動、心室頻拍等の頻脈性不整脈及び心房細動に対しては、関西労災病院の増田正晴先生が当院にてアブレーション治療を行っています。年間 75-85 例を治療しています。徐脈性不整脈(洞不全症候群、房室ブロック、徐脈性心房細動)に対しては、ペースメーカー植え込み術を施行しています。糖尿病や高齢者の増加に伴い末梢動脈疾患も増加しております。当科では主に腸骨～大腿動脈病変に対する経皮的動脈形成術(PTA)を年間 20-25 例施行しております。動脈硬化性疾患は、高血圧・脂質異常症・糖尿病・喫煙・内臓蓄積型肥満症などの生活習慣病を基盤として発症するため、各々の因子をコントロールすることが重要です。当院では、当院糖尿病内科・栄養部や大阪大学研究グループと連携を密に保ち生活習慣病の予防・加療に努めております。家族性高コレステロール血症(FH)は、LDL 受容体関連遺伝子の変異による常染色体優性遺伝する疾患です。FH ヘテロ接合体患者は 300 人に 1 人以上、ホモ接合体患者は 30 万人に 1 人以上の頻度で認められ、わが国における FH 患者総数は 40 万人以上と推定されています。ホモ接合体患者と一部の重症ヘテロ接合体患者は、内服加療だけでは LDL-コレステロールをコントロールできません。長期予後改善のためには、透析に似た回路を使い血中の LDL を吸着する LDL-アフェレーシスが必須です。当院は梅田にあり交通の便が良いため、大阪大学や国立循環器研究病センターから御紹介頂いた患者さんの LDL-アフェレーシスを施行しています。深部静脈血栓症は、エコノミークラス症候群の認知と共にその病因として広く知られるようになりました。当科では肺塞栓症症例、心肺機能が低下している深部静脈血栓症症例、血栓形成ハイリスク疾患で ADL 改善が期待できない症例、肺塞栓を起こすリスクの高い大腿静脈から腸骨静脈の大きな血栓に対して、一時的もしくは永久的に下大静脈フィルターを留置し血栓溶解療法を施行しています。

『スタッフ』

副院長：柳光司 部長：西田義治 医長：西尾宗高
非常勤医師：増田正晴(関西労災病院・不整脈)、他 2 名

『2024年の目標』

可能な範囲で迅速で安全な医療を最大限に行う。

2. 診療実績

	2022年(1月～12月)	2023年(1月～12月)
年間外来患者数	21,144人	20,998人
年間初診患者数	220人	235人
年間入院患者数	1,134人	1,074人
冠動脈造影検査(PCI等含む)	518例	514例
経皮的冠動脈形成術(PCI)	215例	238例
経皮的動脈形成術(PTA)	22例	19例
経皮的腎動脈形成術(PTRA)	4例	2例
カテーテルアブレーション	75例	83例
ペースメーカー留置術	12例	4例
下大静脈フィルター	7例	4例
心エコー	3,662例	3,286例
経食道エコー	12件	0件
頸動脈エコー	2,880例	2,664例
下肢動脈エコー	303例	289例
下肢静脈エコー	737例	815例
腎動脈エコー	826例	744例
トレッドミル運動負荷心電図	1,749例	1,748例
ホルター心電図	343例	356例
心臓CT	936例	1,017例

3. 業績

【学会・研究会】

長谷川千依乃, 竹内千里, 山本真大, 柳光司: SGLT2 阻害剤を投与した腎障害症例における腎機能推移の検討, 第29回中之島循環器・代謝フォーラム, 2023年10月28日, 大阪市

水本拓見, 山本真大, 西尾宗高, 西田義治, 柳光司: レオカーナが著効した左下肢潰瘍症例, 第16回FHと脂質管理について考える会, 2023年12月15日, 大阪市

外科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

大阪中央病院外科は消化器外科、肛門外科および乳腺外科よりなります。以下、各領域別に方針と特徴について述べます。

<消化器外科>

消化器外科については、根津、弓場、安田、相馬が内視鏡外科手術（90%以上）を中心に手術を行っています。また、内視鏡外科学会技術認定取得者（合格率30%以下）が2名（胃1名、胆道1名）在籍しています。当科は大阪大学消化器外科の関連病院として連携しています。

- ・難治性の直腸脱（完全直腸脱）症例に対して、より再発が少ないとされる腹腔鏡下直腸固定術を積極的に行っており、当科で最も施行症例の多い手術です。2015年末までに腹腔鏡下直腸後方固定術（Wells変法）を47例に行い、良好な成績でした。さらに2016年初めより、より良い成績と低侵襲を目指して、欧米で標準術式とされる腹腔鏡下直腸腹側固定術を導入しました。現在は腹腔鏡下直腸腹側固定術と腹腔鏡下直腸後方固定術を併用し、2024年4月までに合計480例に施行し、再発率は1-2%未満と良好な成績を上げており、他施設で手術後の再発患者にも積極的に手術を行っています。
- ・胆嚢疾患：胆石症や胆嚢ポリープ・胆嚢腺筋症などに対する腹腔鏡下胆嚢摘出術は、例年40～70例程度に施行しています。さらに総胆管結石症に対しても、ほぼ全例に胆嚢摘出と同時に腹腔鏡下に結石除去を行っています。
- ・食道疾患：当科では腹部食道の良性疾患に力を入れてきました。腹部食道は通常の開腹手術では相当大きく切らないと手術できない部位ですが、腹腔鏡を用いれば比較的容易に術野が展開できるため、腹腔鏡下手術の良い適応と考えられます。食道アカラシアに対する腹腔鏡下手術はこれまでに36例に行い、逆流性食道炎、食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下噴門形成術はこれまでに45例に行いました。
- ・胃疾患：胃癌に対する腹腔鏡下手術は、当科において積極的に施行しています（腹腔鏡下手術率90%以上）。とくに当初、早期胃癌のみが適応でしたが、郭清技術の向上にともない、進行胃癌にも適応を広げています。また、以前は体腔外で吻合を行う「腹腔鏡補助下胃切除術」でしたが、2015年よりはすべて腹腔内で吻合を行う「完全腹腔鏡下胃切除術」を施行しています。術後の補助化学療法、進行再発癌に対する化学療法もガイドラインに準じて行っております。
- ・大腸疾患：大腸癌に対しても積極的に腹腔鏡下手術を導入しています。一部の例外（腸閉塞を併発した症例や周辺の臓器に浸潤した腫瘍の症例など）を除いて、殆どの大腸癌症例に腹腔鏡下手術を施行しています。年間10～30人程度の大腸癌症例に手術を施行していますが、腹腔鏡下手術の割合は90%を越えています。また、以前は体腔外で吻合を行う「腹腔鏡補助下結腸切除術」でしたが、2019年よりはすべて腹腔内で吻合を行う「腹腔鏡下結

腸切除術」を施行しています。術後の補助化学療法、進行再発癌に対する化学療法もガイドラインに準じて行っております。

- ・炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）に対しても積極的に腹腔鏡下手術を導入しています。また潰瘍性大腸炎根治手術後の合併症併発例に対するサルベージ手術、クローン病再発例、肛門病変合併例に対する外科治療にも取り組んでおり、良好な成績を収めています。
- ・その他：急性虫垂炎はほぼ全例に、鼠経ヘルニアも80%を越えて積極的に腹腔鏡下手術を行っています。

<肛門外科>

肛門疾患については、齋藤を中心に小野、三宅、久能、内海が痔核、裂肛、痔瘻、脱肛、直腸脱などの疾患を専門診療、手術しています。

当院の診療の性格（位置づけ）は、大腸肛門病学会認定の肛門専門医・指導医、臨床肛門病学会認定の肛門疾患の技能認定医・指導医が複数勤務する肛門診療の基幹的（紹介型）施設です。すなわち、近畿地方の診療所や病院から診断・治療の難しい肛門疾患の症例や、治療後の経過が思わしくない症例が多数紹介される施設で、2023年度の手術数は1800件を超えました。

<乳腺・甲状腺外科>

乳腺・甲状腺疾患については、安田、小林と非常勤医（兵庫医科大学）を中心として診療しており、当院健診センターとの協力体制で、診断から治療（手術、化学療法など）まで一貫した診療を行っています。

2023年度は、CNBを58例に施行。内34例が乳がんと診断され、27例を当院乳腺外科で根治手術をしました。検診マンモグラフィの異常所見の中で、微小石灰化病変が指摘される頻度は高く、DCISを示唆する症例を如何に的確に診断するかが問題です。微小石灰化部位を超音波下にCNB生検し組織診断に至りますが、微小石灰化病変は超音波検査では描出されず、いかに該当部位を同定するかが問題となり、Gridを装着したマンモグラムで石灰化部位を同定し、エコー下CNB行う工夫も行っています。

『スタッフ』

現在（2024年4月1日）の陣容は、根津理一郎名誉院長、弓場健義院長、小林哲郎特別顧問、齋藤徹特別顧問、相馬大人外科部長、安田潤消化器外科部長、小野朋二郎肛門外科部長、三宅祐一朗医長、久能英法医長、内海昌子医員の計10名に、富樫優紗・光吉歩（乳腺外科）非常勤医師2名で構成されています。

『2024 年度の目標』

消化器外科：本邦トップクラスの肛門外科とタイアップし、完全直腸脱症例に対する腹腔鏡下直腸固定術症例の増加に努め、本邦トップクラスを目指します。また、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術におけるロボット支援の保険収載時に対応できるように準備します。

肛門外科：2023年度の件数を上回ることを目指します。

乳腺・甲状腺外科：微小石灰化病変の診断については、vacuum assisted mammotome の導入を検討したいところですが、cost performance を考えるとなかなか導入が難しい。エコー部門の診断 skill up は必須であり、更なる研鑽につとめてゆきたいと考えています。

2. 診療実績

	2021 年	2022 年	2023 年
外来患者数	14,445	17,297	19589
入院患者数	1,495	1,801	2124
初診患者数	2,504	2,949	3250

2017 年～2023 年 主な手術実績（消化器外科）

内訳

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
食道裂孔ヘルニア	1	0	1	0	0	1	2
胃癌(粘膜下腫瘍含む)	10	12	10	7	7	3	4
結腸・直腸癌	22	27	14	17	16	10	20
胆石・胆嚢ポリープ	78	60	51	48	42	47	38
総胆管結石症	2	3	3	1	2	3	1
ヘルニア	33	31	41	18	26	36	32
虫垂炎	3	4	6	3	2	7	2
直腸脱	177	180	124	143	133	160	120
〔腹腔鏡下手術〕	[41]	[37]	[46]	[60]	[52]	[69]	[82]
炎症性腸疾患				1	2	1	0

2017年～2023年 主な手術実績（肛門外科）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
痔核	475	553	695	517	622	672	782
痔瘻	349	436	551	521	561	606	674
裂肛・肛門狭窄	43	71	76	67	49	31	81
直腸脱・粘膜脱	136	143	78	83	110	135	129
その他	65	99	135	168	104	167	204
計	1,068	1,302	1,535	1,356	1,446	1,611	1870

2017年～2023年 主な手術実績（乳腺・甲状腺外科）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
乳癌	23	27	31	27	28	25	28

2017年～2023年 NCD登録数（消化器一般、肛門外科、乳腺・甲状腺外科）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
NCD登録数	1,318	1,517	1,798	1,565	1,594	1,853	2119

3. 業績

【学会・研究会・座長・司会】

『発表・講演』

1. 斎藤徹、小野朋二郎、久能英法：肛門科外来における診断：第78回日本大腸肛門病学会；2023年11月10-11日；熊本市
2. 斎藤徹：ALTA療法施行上の注意，奈良肛門疾患懇談会；2023年9月9日；橿原市
3. 相馬大人、弓場健義、安田潤、内海昌子、久能英法、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎：腹腔鏡下直腸固定術後の骨盤臓器脱の発生に関する検討，第78回日本消化器外科学会，2023年7月12-14日；函館市
4. 相馬大人、弓場健義、安田潤、内海昌子、久能英法、小野朋二郎、斎藤徹、小林哲郎、根津理一郎：Altemeier手術後の再発直腸脱に対し腹腔鏡下直腸固定術を施行した3例，第78回日本大腸肛門病学会；2023年11月10日-11日；熊本市
5. 相馬大人、弓場健義、安田潤、小野朋二郎、根津理一郎、斎藤徹：ALTA治療後の直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術，第125回近畿肛門疾患懇談会；2023年11月18日；大阪市

6. 小野朋二郎、内海昌子、三宅祐一朗、久能英法、安田潤、相馬大人、齋藤徹、弓場健義、根津理一郎：直腸脱に対する Delorme 手術の手技と成績，第 78 回日本消化器外科学会；2023 年 7 月 12-14 日；函館市
7. 小野朋二郎、齋藤徹、久能英法、三宅祐一朗、相馬大人、安田潤、弓場健義、根津理一郎：坐骨直腸窩痔瘻に対する括約筋温存手術，第 78 回日本大腸肛門病学会；2023 年 11 月 10-11 日；熊本市
8. 小野朋二郎、三宅祐一朗、久能英法、安田潤、相馬大人、齋藤徹、弓場健義、根津理一郎：痔核に対する結紮切除術，第 85 回日本臨床外科学会；2023 年 11 月 16-18 日；岡山市
9. 三宅祐一朗、小野朋二郎、齋藤徹、内海昌子、久能英法、相馬大人、安田潤、弓場健義、根津理一郎：直腸粘膜脱を伴う全周性外痔核腫脹に対する MuRAL 手術の経験；第 78 回日本大腸肛門病学会；2023 年 11 月 10-11 日；熊本市
10. 安田潤、弓場健義、相馬大人、内海昌子、久能英法、小野朋二郎、齋藤徹、小林哲郎、根津理一郎：導尿を必要とする排尿障害が腹腔鏡下直腸固定術によって改善した完全直腸脱の 4 例，第 78 回日本消化器外科学会；2023 年 7 月 12-14 日；函館市
11. 安田潤、弓場健義、相馬大人、内海昌子、久能英法、三宅祐一朗、小野朋二郎、齋藤徹、根津理一郎：LVR 術後直腸脱再発に対する腹腔鏡下直腸固定術；第 78 回日本大腸肛門病学会；2023 年 11 月 10-11 日；熊本市
12. 安田潤、小林哲郎、相馬大人、内海昌子、久能英法、小野朋二郎、齋藤徹、弓場健義、根津理一郎：浸潤性乳管癌術後に同側性異時性に発症した Encapsulated Papillary Carcinoma の一例，第 31 回日本乳癌学会；2023 年 6 月 29-7 月 1 日；横浜市
13. 安田潤、弓場健義、相馬大人、内海昌子、久能英法、小野朋二郎、齋藤徹、小林哲郎、根津理一郎、金鏞国：術前に診断が困難であった重複胆嚢に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を行った 1 例，第 85 回日本臨床外科学会；2023 年 11 月 16-18 日；岡山市
14. 久能英法、内海昌子、三宅祐一朗、小野朋二郎、安田潤、相馬大人、根津理一郎、弓場健義、齋藤徹：当院における痔核手術の工夫と術後成績，第 78 回日本大腸肛門病学会；2023 年 11 月 10-11 日；熊本市
15. 久能英法、小野朋二郎、内海昌子、三宅祐一朗、齋藤徹：抗血栓療法施行中の肛門手術患者への当科の対応，第 124 回近畿肛門疾患懇談会；2023 年 6 月 10 日；大阪市
16. 福田正博、外山学、弓場健義、星賀正明、澤芳樹、中尾正俊、高井康之、茂松茂人：令和 4 年度 大阪府医師会生涯研修活動の実態，大阪府医師会医学会；2023 年 11 月 5 日；大阪市

『座長・司会』

1. 根津理一郎：症例検討（炎症性腸疾患の診療アプローチ），第 88 回 IBD mini よろず相談会（司会）；2023 年 1 月 27 日；大阪市
2. 根津理一郎：症例検討（炎症性腸疾患の診療アプローチ），第 90 回 IBD mini よろず相談会（司会）；2023 年 10 月 19 日；大阪市

3. 弓場健義：高度進行・再発直腸癌に対する超拡大手術（関西医科大学外科 関本 貢嗣教授），大阪臨床外科医会 令和5年度前期総会（司会）；2023年6月1日；大阪市
4. 弓場健義：研修医セッション 胃①，第85回日本臨床外科学会（座長）；2023年11月17日；岡山市
5. 斎藤徹：IBDにおける痔瘻，第123回日近畿肛門疾患懇談会（司会）；2023年2月18日；大阪市
6. 斎藤徹：シンポジウム3 その他（ALTA・ALTA併用療法、ACL、分離結紮），第6回日本臨床肛門病学会（司会）；2023年3月19日；大阪市
7. 斎藤徹：抗血栓療法中の肛門疾患患者の麻酔と手術，第124回日近畿肛門疾患懇談会（司会）；2023年6月10日；大阪市
8. 斎藤徹：シンポジウム1-3 痔核に対するALTAの長期予後，第78回日本大腸肛門病学会（座長）；2023年11月10日；熊本市
9. 斎藤徹：ALTA療法後の手術（痔核に限らず），第125回日近畿肛門疾患懇談会（司会）；2023年11月18日；大阪市
10. 安田潤：一般演題（示説）9「胆嚢・膵臓・脾臓・門脈⑤」，第85回日本臨床外科学会（座長）；2023年11月16日；岡山市

【論文・著書】

1. Okabayashi K, Ikeuchi H, Uchino M, Futami K, Noguchi T, Ohge H, Iseki Y, Watanabe K, Itabashi M, Okamoto K, Toiyama Y, Ogino T, Nakamura M, Yamada K, Wakai T, Sato Y, Kimura H, Takahashi K, Hida K, Kinugasa Y, Ishida F, Okuda J, Daito K, Koyama F, Ueno H, Yamamoto T, Yamamoto S, Hanai T, Maemoto A, Arakaki J, Komori K, Akagi Y, Shida D, Yamaguchi S, Matsuda K, Maeda K, Noake T, Nezu R, Sasaki S, Hasegawa J, Sunami E, Kanemitsu Y, Katsumata K, Uehara K, Kiyomatsu T, Suto T, Kazama S, Yamada T, Goi T, Ishihara S, Ajioka Y, Sugihara K: Effect of Biologics on the Risk of Advanced-Stage Inflammatory Bowel Disease-Associated Intestinal Cancer: A Nationwide Study: *Am J Gastroenterol*: 2023;118:1248-1255.
2. Ogino T, Mizushima T, Fujii M, Sekido Y, Eguchi H, Nezu R, Ikeuchi H, Motoi U, Futami K, Okamoto K, Nagahara H, Watanabe K, Okabayashi K, Yamada K, Ohge H, Tanaka S, Mizuuchi Y, Ohkita Y, Sato Y, Ueno H, Kono T, Itabashi M, Kimura H, Hida K, Kinugasa Y, Takahashi K, Koyama F, Hanai T, Maeda K, Noake T, Shimada Y, Yamamoto T, Arakaki J, Mastuda K, Okuda J, Sunami E, Akagi Y, Katsumata K, Uehara K, Yamada T, Sasaki S, Ishihara S, Ajioka Y, Sugihara K; Study Group for Inflammatory Bowel Disease Associated Intestinal Cancers by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum: Crohn's Disease-Associated Anorectal Cancer Has a Poor Prognosis With High Local Recurrence: A Subanalysis of the Nationwide Japanese Study: *Am J Gastroenterol* 2023; 118: 1626-1637.

3. Ueda T, Koyama F, Sugita A, Ikeuchi H, Futami K, Fukushima K, Nezu R, Iijima H, Mizushima T, Itabashi M, Watanabe K, Hata K, Shinagawa T, Matsuoka K, Takenaka K, Sasaki M, Nagayama M, Yamamoto H, Shinozaki M, Fujiya M, Kato J, Ueno Y, Tanaka S, Okita Y, Hashimoto Y, Kobayashi T, Koganei K, Uchino M, Fujii H, Suzuki Y, Hisamatsu T: Endoscopic Lesions of Postoperative Anastomotic Area in Patients With Crohn' s Disease in the Biologic Era: A Japanese Multi-Centre Nationwide Cohort Study: J Crohns Colitis 2023; 17: 1968-1979.

【多施設共同研究への参加・製薬企業からの受託研究】

1. StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法
または XELOX 療法における 5-FU 系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関する
ランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 (JFMC-1202-C3 ACHIEVE Trial)
財団法人がん集学的治療研究財団 (2012. 8. 1~2021. 7. 31)
2. 直腸脱の手術成績に関する後ろ向き研究 Retrospective Study of Surgical Outcomes for
Rectal Prolapse 大阪大学消化器外科共同研究会 大腸疾患分科会 (2021 年 1 月~)
3. 厚労省「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」(久松班) project 研究 (多施設共同)「潰瘍性大腸炎治療例の予後-QOL の観点から」(2020 年 6 月~)

整形外科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当院整形外科では、膝関節、股関節、肩関節疾患に対する関節外科を中心に診療を行っている。

近年、整形外科領域においては、患者の立脚型評価（PROMs）が注目されている。これは、医療者ではなく患者自身の視点から健康状態を評価する尺度で、治療による患者満足度の重要性を考慮し、医療の質を向上させるために使用されている。

当院でも医療の質の向上を目的に、2021年1月に人工関節手術支援ロボット Mako SmartRobotics（Stryker 社）の導入を機に「Ai ロボティクス人工関節センター」を開設した。人工膝関節、人工股関節手術において、Ai を搭載した3D術前プランニングソフトによる綿密な術前計画を Mako SmartRobotics 支援下手術で正確に再現することが可能となった。

Mako システムは、以下の特徴がある。

- 変性によって硬化した骨を切除するにあたり、ロボティックアームが安定的にデバイスを保持し、正確に骨切除を行うことで再現性の高い手術を支援する
- 靭帯や血管など、治療計画にない部位に切除デバイスが差し掛かると停止、低侵襲な手術による術後疼痛の軽減にともなう早期の機能回復、入院期間の短縮が期待できる
- 再現性の高いインプラント設置による長期耐久性の向上と、人工股関節では術後脱臼などの合併症の低減が期待できる
- これまで医師の経験に委ねられた靭帯バランスの評価を、数値によりリアルタイムで表示し、数値に基づいたより定量的な評価を実現
- 従来骨切除に必要なだったサイズごとの「カッティングブロック」が不要となり、ソーブレードによるダイレクトカットが可能

また、術後のリハビリテーションにも歩行アシストロボットを用いたロボットリハビリテーションを導入し、術前から手術、リハビリテーションまで一貫して「Ai×ロボティクステクノロジー」による医療を提供し、患者様の早期社会復帰を目指します。

膝関節外科では、

スポーツ外傷・障害の治療

- ・半月板損傷や靭帯損傷などのスポーツ外傷に対する関節鏡視下手術
- ・関節軟骨損傷に対する鏡視下骨軟骨柱移植術や自家培養軟骨細胞移植術

変形性膝関節症の治療

- ・初期変形性膝関節症対しては変性半月板損傷や関節軟骨障害には関節鏡手術
- ・中期変形性膝関節症には骨切り術や片側型人工膝関節置換術(Mako SmartRobotics、PSI+Navigation)

- ・末期変形性膝関節症には全人工関節置換術(Mako SmartRobotics、PSI+Navigation)と病期によって適切な治療を選択して行っています。

股関節外科では、

- ・股関節唇損傷や大腿臼蓋インピンジメントに対する関節鏡視下手術
- ・変形性股関節症、関節リウマチや大腿骨頭壊死による進行期、末期の股関節障害に対して筋肉を切らずインナーマッスルを温存する前方アプローチによる最小侵襲人工股関節置換術(Mako SmartRobotics PSI+Navigation)を行っています。

肩関節外科では

- ・腱板断裂、インピンジメント症候群、肩関節脱臼などに対する関節鏡下手術
- ・変形性肩関節症に対する人工関節手術
- ・拘縮肩に対するリハビリおよび外科的治療を行っています。

『スタッフ』

副院長 兼リハビリテーション科部長 : 坪田 次郎

整形外科顧問 : 林田 賢治

整形外科部長 兼 Ai ロボティクス人工関節センター長 : 藪野 互平

Ai ロボティクス人工関節センター 副センター長 : 藪田 健太郎

『2024 年の目標』

- 人生 100 年時代を健康に生きる-

昨年度に引き続き、人生 100 年時代を健康に生きるために、基盤となる歩行機能の維持、また肩、膝、股関節などの関節の痛みを悩まされない生活の実現を目指し、治療をとおして社会に貢献していきたいと考えます。

2. 診療実績

年度別外来・入院延べ患者数

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
外来	7,942	8,101	6,895	7,475	8,760	9,550
入院	4,193	6,227	5,667	6,974	8,150	7,986
新入院患者	206	261	251	329	363	424

2023 年 1 月より常勤医一名が増員となり診療体制を変更し、診療にあたった。

病棟・手術体制

病床数は 25 床を常勤医 4 名で担当し、月曜、火曜、水曜午前、木曜、金曜に手術を行った。

手術件数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
関節鏡視下半月板手術(膝)	48	57	48	32	24	26
関節鏡視下鼠摘出術(膝)	25	18	8	9	11	9
関節鏡視下靭帯形成術(膝)	24	15	15	6	5	6
関節鏡視下関節滑膜切除(膝)	0	0	0	9	4	3
関節鏡視下関節唇縫合術(股)	0	0	0	1	0	1
関節鏡視下腱板断裂手術(肩)	0	0	0	0	19	33
関節鏡視下関節唇形成術(肩)	0	0	0	0	4	6
関節鏡視下滑液膜摘出(肩)	0	0	0	0	5	14
人工関節置換術(膝)	52	86	72	140	143	153
人工関節再置換術(膝)	0	1	1	2	2	2
人工関節置換術(股)	2	33	43	71	96	117
人工関節再置換術(股)	0	1	1	0	0	1
人工関節置換術(肩)	0	0	0	0	7	7
人工関節置換術(足)	0	0	0	1	1	0
骨切り術	0	0	4	3	2	4
外反拇趾	0	1	2	2	0	0
上肢骨折	0	2	4	1	1	1
下肢骨折	2	8	10	4	7	3
その他部位の骨折	1	4	2	0	15	8
抜釘などその他	15	28	33	57	38	30
総手術数	186	253	242	338	384	425

3. 業績

【学会発表】

1. MAKO ロボティックアーム使用スクリーレスプレスフィットカップの確実性と関連因子
第50回日本股関節学会 福岡 2023/10/27-28
藪野互平 濱脇誠 花之内健仁 林田賢治 坪田次郎
2. 骨盤骨切り術後 THA における Mako ロボティックアームの有効性
第53回日本人工関節学会 横浜 2023/2/10-11
藪野互平 濱脇誠 花之内健仁 林田賢治 坪田次郎

皮膚・形成外科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

- ・当科は皮膚科と形成外科という2つの科で一診療科を構成しています。両診療科は共通した疾患を取り扱うことが多く、診療に関する情報を相互共有しやすくすることで、よりクオリティの高い医療を目指しています。
- ・皮膚科、形成外科ともに、すべて専門医が診療します。
- ・当院形成外科では、特に眼瞼下垂症、下肢静脈瘤の診療に力を入れています。なお、すべての診療は下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による指導医が行います。

『スタッフ』

形成外科部長： 月野暁彦（形成外科専門医・血管内焼灼術指導医・皮膚腫瘍外科指導医）
皮膚科(非常勤)：平野亜由子（皮膚科専門医）

『2024年の目標』

当科では、安全で確実な治療を専門医が行うというスタンスで診療しております。

形成外科では、診療の主体である、眼瞼下垂と下肢静脈瘤の症例を増やしていきたいと考えております。

2. 診療実績

年（1月～12月集計）	2020年	2021年	2022年	2023年
外来患者延数	4,971	4,412	5,032	4,952
初診患者延数	849	553	498	485
入院患者延数 （退院患者含む）	453	470	617	688

年（1月～12月集計）	2020年	2021年	2022年	2023年
手術件数 入院	135	129	181	161
外来	171	117	200	230
眼瞼下垂手術	88	73	103	80
下肢静脈瘤手術	32	40	36	27
皮膚皮下腫瘍摘出術	124	128	130	158

泌尿器科

1. 概要

【当科の方針と特徴】

当院が都心に位置することを最大限に活用すべく、すべての泌尿器科領域の疾患に対して低侵襲かつ早期社会復帰を目指して診察、治療を行っている。入院での治療が標準である結石破碎治療は外来手術で行い、経尿道的膀胱腫瘍切除術の入院期間は5日間と大阪府下有数の短期入院である。また、前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術は早くから導入し、神経温存や膀胱機能温存など合併症を極力減らした術式を実施している。

【スタッフ】

副院長 関井 謙一郎、部長 木内 寛、医長 惣田 哲治、医員 宮田 勇士、吉岡 史江

各曜日午前中は1~2診で外来診療を行い、月・水・金の午後には女性専用のウロギネセンターを、金の午後には男性の専門外来（精索静脈瘤・不妊・ED）を開設している。

【2024年の目標】

2024年4月にロボット手術に使用するダヴィンチの機種をSiからXへ更新しました。前立腺癌が疑われるPSA高値の場合、迅速なMRIによる診断とサドルブロックを使用して、痛みのない1泊2日の前立腺生検を行っている。また、当科が古くから行っている女性泌尿器科手術や男性不妊症手術についても、発信力を強化し、地域貢献をしたいと考えている。

2. 診療実績

2022年度と比較して、2023年度は外来新患数、入院件数、手術件数のすべてにおいて増加した（表1）。COVID-19で少なくなった骨盤臓器脱や尿失禁などの女性泌尿器科手術は以前よりも増加した。2022年から不妊症治療が保険適応になったことに加え、近隣の不妊クリニックとの連携を新たに構築したことで、男性泌尿器科の手術件数が増加した（表2）。

表1 泌尿器科の外来、入院、手術実績

	外来新患数	1日平均 外来患者数	入院件数	手術件数 (ESWL含まず)	ESWL (体外衝撃波 碎石術)
2021年度	484	39.5	341	300	52
2022年度	505	41.6	488	374	48
2023年度	530	43.0	566	462	16

表 2 泌尿器科の手術内訳

	内視鏡手術	腹腔鏡手術	ロボット手術	女性泌尿器手術*	男性不妊手術*
2021 年度	83	18	32	50	15
2022 年度	110	18	28	66	24
2023 年度	139	21	29	71	39

女性泌尿器手術：TVM、LSC、TVT (TOT)

男性不妊手術：精索静脈瘤低位結紮術、腹腔鏡下精索静脈瘤根治術 micro-TESE、simple TESE

【当科で行っている主な手術】

内視鏡手術：TURBT、HoLEP、TURP、TUL、膀胱水圧拡張術、尿管腫瘍レーザー切除術

腹腔鏡手術：腎部分切除術、腎摘除術、腎尿管全摘除術、副腎摘除術、膀胱全摘除術、

精索静脈瘤根治術、尿膜管摘除術

体外衝撃波胆石破砕 (STORZ 社製 MODULITH SLX-F2/Connect)

ロボット手術：RARP (ダヴィンチX)

女性泌尿器科手術：TVM、LSC、TVT、TOT、ボトックス注入

男性不妊手術：精索静脈瘤低位結紮術、腹腔鏡下精索静脈瘤根治術 micro-TESE、simple TESE、

3. 業績

【学会発表】

1. 惣田哲次, 木内寛, 鯉田容平, 関井謙一郎: 骨盤臓器脱に対する TVM 手術の有効性と安全性 - ORHIME とポリプロピレンメッシュの臨床的検討-: 第 110 回日本泌尿器科学会総会; 2023 年 4 月 20 日; 兵庫県神戸市
2. 木内寛, 惣田哲次, 鯉田容平, 関井謙一郎: RALP 中に起こった針の紛失: 第 110 回日本泌尿器科学会総会; 2023 年 4 月 22 日; 兵庫県神戸市
3. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 鯉田容平, 関井謙一郎, 関井洋輔, 上田倫央, 竹澤健太郎, 福原慎一郎, 野々村祝夫: ナトリウム排泄のサーカディアンリズムの変調と夜間多尿: 第 30 回日本排尿機能学会; 2023 年 9 月 6 日; 千葉県千葉市
4. 吉岡史江, 吉岡史江, 惣田哲次, 木内寛, 関井謙一郎: テストステロン低値の不妊患者に対してホルモン補充療法 27 年後に進行性前立腺癌を発症した一例: 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会; 2023 年 10 月 7 日; 北海道札幌市
5. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 関井謙一郎: COVID-19 流行が及ぼした女性骨盤底外来受診への影響: 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会; 2023 年 10 月 7 日; 北海道札幌市
6. 惣田哲次, 惣田哲次, 木内寛, 鯉田容平, 関井謙一郎: 新開発メッシュを用いた TVM 手術の 1 年成績 PTFE vs PP: 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会; 2023 年 10 月 13 日; 和歌山県和歌山市

7. 鯉田容平, 惣田哲次, 木内寛, 松岡庸洋, 関井謙一郎: ロボット支援下前立腺全摘除術 (RARP) 施行後の尿禁制についての検討: 令和4年度大阪府医師会医学会総会; 2023年11月5日; 大阪府大阪市
8. 惣田哲次, 吉岡史江, 木内寛, 関井謙一郎: 未婚男性の脊髄損傷患者において simple TESE を行った1例: 第68回日本生殖医学会学術講演会; 2023年11月9日; 石川県金沢市
9. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 関井謙一郎: 夜間多尿の人は睡眠中のナトリウム排泄が多い: 第19回日本臨床泌尿器科医会 臨床検討会; 2023年11月26日; 山形県山形市
10. 吉岡史江, 惣田哲次, 木内寛, 関井謙一郎: 後腹膜鏡下单純腎摘除後に胸痛を伴う縦隔気腫を認めた一例: 第75回日本泌尿器科学会西部総会; 2023年11月14日; 愛媛県松山市

【論文】

1. Koida Y, Kiuchi H, Yoshioka F, Soda T, Sekii K. Lost Needle During Robot-Assisted Radical Prostatectomy: A Case Report and Literature Review. *Cureus*. **15**(7): e42119. 2023.
2. Soda T, Kiuchi H, Koida Y, Imanaka T, Oida T, Matsuoka Y, Sekii K. Transvaginal Polytetrafluoroethylene Mesh Surgery for Pelvic Organ Prolapse: One-Year Safety and Efficacy Results. *Urology*. Feb 15: S0090-4295(24)00081-5. 2024
3. Yoshiyama A, Tsujimura A, Hiramatsu I, Morino J, Anno Y, Kurosawa M, Kure A, Uesaka Y, Nozaki T, Shirai M, Kiuchi H, Horie S. Circadian Rhythm of Voided Volume, Maximum Flow Rate, and Voiding Time Evaluated by Toilet Uroflowmetry in Hospitalized Women With Nocturia. *Urology*. **179**:50-57. 2023.
4. Kuribayashi S, Fukuhara S, Tsujimura G, Imanaka T, Okada K, Ueda N, Takezawa K, Kiuchi H, Saito S, Takahashi Y, Kioka H, Oura S, Shimada K, Ikawa M, Nonomura N. Evaluation of the efficacy of creatine chemical exchange saturation transfer imaging in assessing testicular maturity. *Reprod Med Biol*. **22**(1):e12507. 2023.
5. Miyoshi M, Tsujimura A, Miyoshi Y, Uesaka Y, Nozaki T, Shirai M, Kiuchi H, Kobayashi K, Horie S. Low serum zinc concentration is associated with low serum testosterone but not erectile function. *Int J Urol*. **30**(4):395-400. 2023.
6. Tani M, Nagahara A, Takada S, Fujita K, Fukuhara S, Uemura M, Kiuchi H, Imamura R, Nonomura N. A case of mediastinal teratoma with malignant transformation into angiosarcoma and relapse with multiple bone metastases that was cured by a multidisciplinary treatment. *IJU Case Rep*. **6**(2):93-96. 2023.
7. Nate T, Hatano K, Kato T, Kawashima A, Abe T, Fukuhara S, Uemura M, Kiuchi H, Imamura R, Nonomura N. Mucinous cystadenoma of the renal parenchyma presenting as a Bosniak IIF complex renal cyst. *IJU Case Rep*. **18**;6(2):150-153. 2023.
8. Inoguchi Y, Hatano K, Kato T, Kawashima A, Abe T, Fukuhara S, Uemura M, Kiuchi H, Imamura R, Nonomura N. Surgical resection of primary leiomyosarcoma of retro-hepatic inferior vena cava extending from bilateral renal veins across the diaphragm. *Int Cancer Conf J*. **12**(2):115-119. 2023.
9. 関井謙一郎, 惣田哲次, 鯉田容平, 木内寛. Clear Petra system が極めて有効であった多発性腎結石の1例 *泌尿器外科* **36** (1), 87-89, 2023.

10. 木内寛, 惣田哲次, 鯉田容平, 関井謙一郎, 竹澤健太郎, 福原慎一郎. 腸内細菌叢と様々な疾患への関与. 日本排尿機能学会誌 **33** (2), 424-428, 2023.
11. 竹澤健太郎, 関井洋輔, 木内寛, 野々村祝夫. 夜間多尿モデルマウスを用いた夜間多尿の新規治療法開発. 日本排尿機能学会誌 **33** (2), 440-441, 2023.

【ガイドライン】

1. 木内 寛, 他. 男性不妊症ガイドライン 2024 年版. メディカルレビュー, 2024 年

【講演会・セミナー】

1. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 鯉田容平, 関井謙一郎: 最新知見から考える夜間頻尿の治療ポイント: 浪速区医師会 5 月度学術講演会; 2023 年 4 月 15 日; 大阪府大阪市
2. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 関井謙一郎: 私の過活動膀胱診療: アステラス製薬社内講演; 2023 年 6 月 1 日; 大阪府大阪市
3. 木内寛, 吉岡史江, 惣田哲次, 関井謙一郎: すぐに役立つ排尿障害治療薬の使い分け: 薬剤師のための皮膚・泌尿器疾患セミナー; 2023 年 9 月 2 日; 大阪府大阪市

【座長・司会】

1. 木内寛: 前立腺腫瘍/一般③: 第 110 回日本泌尿器科学会総会; 2023 年 4 月 22 日; 兵庫県神戸市
2. 木内寛: 前立腺肥大症③: 第 110 回日本排尿機能学会; 2023 年 9 月 8 日; 北海道札幌市
3. 木内寛: 大阪大学における排尿機能研究: 第 10 回大阪泌尿器科連携フォーラム; 2023 年 9 月 30 日; 大阪府大阪市

【学術賞】

1. 木内寛
令和 4 年度 大阪府医師会 医学研究奨励助成:
夜間多尿とナトリウムの排泄リズムの乱れ: 蓄尿による正確な塩分排泄量に基づく解析

婦人科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当科は2006年より腹腔鏡下手術に特化した診療を開始し、現在までに8000例を超える腹腔鏡下手術を施行してきた。良性疾患に対する手術を中心と診療をしており、対象となるものは主として子宮筋腫・子宮内膜症・子宮腺筋症・卵巣嚢腫・不妊症である。婦人科良性疾患は悪性疾患との鑑別は重要であり、安全に手術を行うための評価(手術を行う場合の難易度や子宮内膜症の重症度、癒着の有無など)が重要である。重症子宮内膜症や巨大子宮頸部筋腫・骨盤内に対してMRIゼリー法や経膈エコーによって術前に正確に評価することに努め、患者のライフスタイルや人生設計を考慮して、治療法を検討し、手術をする場合には、その時期や術式、術後の薬物治療(不妊症の場合には術後の治療内容や計画)についても十分検討している。

一般的に婦人科良性疾患の手術は、悪性腫瘍と異なり生命に関わることは少ないと思われがちであるが、大きな腫瘍や癒着を伴うものが多く、手術そのものは決して容易ではない。また、妊孕性温存手術では、将来の妊娠出産のための丁寧な手術が必要である。現在の腹腔鏡下手術は開腹手術に比べて、腹腔内臓器や病変を拡大して観察し細かな手術操作ができるところが大きく優れている。私たちは単に傷が小さいだけでなく、精細な操作によって身体に優しい(出血が少なく、できるだけ術後癒着のない)手術、そして開腹手術では容易には実現できないであろう手術内容を目指している。

『スタッフ』

松本貴 副院長兼婦人科部長(2006年4月入職)

細川有美 婦人科医長(2019年4月入職)

相本法慧(2023年4月入職)

なお、岩井夏実(2018年4月-2023年6月)は北野病院へ、天雲千晶(2023年4月-2024年3月)は香川大学へ異動した。

『2024の目標』

2023年はコロナ禍での行動制限がなくなり学会や研究会が現地で開催されるようになった。産婦人科医のマンパワー不足の影響もあり手術症例数は2020年からほぼ横ばいである。2024年は常勤医師の減少のため手術件数を維持するのは難しいと思われるが、スタッフの実力は大きく向上しており、非常勤医師の増員もあって手術件数は若干の減少に留められる見込みである。

2023年には、卵巣子宮内膜症性嚢胞のうち多房性のものや炎症の強く核出が困難であると予想される症例に対してアルゴンプラズマコアギュレーター(APC)を用いて、卵巣への侵襲をできるだけ最小限にとどめる焼灼術を取り入れている。術後の卵巣予備能が危惧される症例に対してはAPCの併用によって不妊症や若年の子宮内膜症患者のQOLを高める努力をしていきたい。

2023年10月には西梅田ラパロセミナー2023を院内で開催し、25名の技術認定を目指す若手の産婦人科医師に参加していただいた。2024年は7月に西梅田ラパロセミナー2024を、10月には『大人のための縫合結紮セミナー』を開催する。また、オンラインでも西梅田ラパロセミナーや医療機器メーカーのウェビナーでの講演・ビデオクリニックを行う予定である。

2. 診療実績

婦人科手術実績

		2023年4月－2024年3月
手術総数		325
腹腔鏡下子宮全摘術		145
	深部子宮内膜症を含む	10
腹腔鏡下子宮筋腫核出術		74
腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術	卵巣囊腫核出術	72
	子宮附属器摘出術	17
腹腔鏡下卵管摘出術		20
腹腔鏡下子宮内膜症病巣切除術(子宮全摘術を伴わないもの)		16

3. 業績

【学会】

1. 松本貴：ランチョンセミナー3 「レルミナは子宮内膜症の手術をどう変えるのか？ -子宮内膜症根治手術と Relugolix challenge test-」：第75回日本産科婦人科学会学術講演会；2023年5月12-14日；東京都千代田区
2. 松本貴，楠元理恵，岩井夏実，細川有美：「こころとからだがよるこぶ術中コミュニケーション ～“感情ことばは術者のパフォーマンスを上げる～」：第35回日本小切開・鏡視外科学会；2023年6月2-3日；東京都文京区
3. 山口純子1)，松本貴：「月経痛を解説する 一月経痛を発生させるコミュニケーションの型」：第64回日本心身医学会総会ならびに学術講演会；2023年7月1-2日；神奈川県横浜市 1)解説カイロプラクティック
4. 山口純子1)，松本貴：月経前症候群を解説する 一月経前症候群を発生させる共通のコミュニケーションの型」：第51回日本女性心身医学会学術集会；2023年7月29日；岡山市 1)解説カイロプラクティック
5. 岩井夏実，佐伯愛，楠元理恵，浅野正太，細川有美，松本貴：「当院における鼠径部子宮内膜症23症例の治療経験」：第63日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会；2023年9月14-16日；滋賀県大津市
6. 岩井夏実，松本貴，相本法慧，天雲千晶，細川有美：「安全な基靭帯処理・腔管切開のために ～前だけでなく後ろが大事～」：第63日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会；2023年9月14-16日；滋賀県大津市
7. 楠元理恵，松本貴，岩井夏実，細川有美：「性交経験のない患者の子宮頸部筋腫の分娩筋腫に対して安全にTLHを施行した一例」：第63日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会；2023年9月14-16日；滋賀県大津市

8. 松本貴, 相本法慧, 岩井夏実, 天雲千晶, 細川有美: シンポジウム 6 徹底討論・子宮内膜症! -子宮内膜症手術はどこまで必要か- 「子宮内膜症に対する TLH ーより根治的な手術はどこまでできるか?ー」: 第 63 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2023 年 9 月 14-16 日; 滋賀県大津市
9. 細川有美, 松本貴, 相本法慧, 岩井夏実, 天雲千晶: 「レルゴリクスで巨大子宮筋腫は本当に小さくなるのか - 安全な手術を行うための術前評価法の模索 -」: 第 63 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会; 2023 年 9 月 14-16 日; 滋賀県大津市
10. 松本貴, 相本法慧, 岩井夏実, 天雲千晶, 細川有美: 「感情ことばは手術室の空気をどう変えるか? - ところとからだの喜び術中コミュニケーション -」: 第 46 回日本産婦人科手術学会; 2023 年 9 月 30 日; 東京都中央区
11. 岩井夏実, 松本貴, 相本法慧, 天雲千晶, 細川有美: 「病理学的検知から考える腹腔鏡下卵巣成熟嚢胞性奇形腫摘出術」: 第 36 回日本内視鏡外科学会総会; 2023 年 12 月 9 日; 横浜市
12. 松本 貴: ランチョンセミナー 1 「The microsurgical approach for endometriosis -腹腔鏡下手術の安全をささえる” Minimally Invasive Electrosurgery” -」 第 45 回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会; 2024 年 1 月 20 日; 東京都新宿区
13. 細川 有美, 松本 貴, 天雲 千晶, 相本 法慧: 「子宮, 卵巣と深部子宮内膜症病変を切除しても術後 ERT で疼痛が再発する症例の検討」: 第 45 回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会; 2024 年 1 月 21 日; 東京都新宿区

【講演会】

1. 松本貴: 特別講演「レルゴリクスと子宮内膜症手術」第 1 回 Shizuoka gynecology research conference for pharmacotherapy and surgical treatment 学術講演会; 2023 年 4 月 15 日; 静岡県静岡市
2. 松本貴: Upstream ウェビナー 第 3 回よくわかる TLH 「子宮上部靭帯と広間膜後葉の処理」; 2023 年 5 月 20 日; オンライン (Zoom ウェビナー)
3. 松本貴: Upstream ウェビナー 第 4 回よくわかる TLH 「子宮動静脈と腔管の処理」; 2023 年 7 月 7 日; オンライン (Zoom ウェビナー)
4. 松本貴: Upstream ウェビナー 第 5 回よくわかる TLH 「腔断端縫合」; 2023 年 9 月 22 日; オンライン (Zoom ウェビナー)
5. 松本貴: 特別講演「レルゴリクスと LM・TLH-術者にとっても患者にとっても快適で効果的な術前投与とは?ー」; 2024 年 1 月 13 日; 兵庫県神戸市
6. 松本貴: 特別講演「子宮内膜症に対する腹腔鏡下手術-「手術ができる」ということはどういうことなのか?ー」; 2024 年 3 月 1 日; 新潟県新潟市
7. 松本貴: Upstream ウェビナー よくわかる TLH 「巨大子宮腫瘍に対する TLH」; 2024 年 3 月 7 日; オンライン (Zoom ウェビナー)
8. 松本貴, 山口純子 1), : Johnson&Johnson's seminar for Communication in the Operating Theater (J-SCOT); 2023 年 11 月 17 日-2024 年 3 月 16 日 (全 4 回); 大阪府大阪市 1) 解説カイロプラクティック

【座長・司会】

1. 松本貴：一般口演 67 「TLH7」第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会，2023 年 9 月 16 日：滋賀県大津市
2. 松本貴：一般演題（口演）104 産婦人科 vNOTES・子宮 第 36 回日本内視鏡外科学会総会，2023 年 12 月 8 日：神奈川県横浜市

【著書】

1. 松本貴：「臨床的骨盤筋膜解剖から考える よくわかる TLH」，メジカルビュー社，2023 ISBN978-4-7583-2135-8

【講演会（当院主催）】

1. 第 17 回西梅田婦人科ラパロセミナー（テーマ：自分らしい理想の人生の歩み方），2024 年 1 月 26 日，Zoom ミーティング

眼科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

地域の病診連携に於いて緊急手術および入院の要請に確実に応えられるようにしている。
2020年度から大阪大学眼科医局派遣医師による当院健康管理センター施行の一般・特殊健診・ドック等での眼底写真の一次読影、色覚検査の判定を行っているが、眼底写真の二次読影は引き続き眼科スタッフで行っており、電離放射線健診における水晶体検査も眼科外来に於いて眼科スタッフで施行している。月曜外来は大阪大学眼科医局から健康管理センターへの派遣医師が兼務している。2023年1月に新規導入した広角眼底カメラを活用し、無散瞳診察の患者に対しても積極的に周辺部網膜病変の検索をし、特に網膜剥離の早期発見・早期治療につなげていく。

『スタッフ』

医師 常勤 井上由美子
非常勤 塚本裕次 塚本浩子 長谷川琢也
視能訓練士 常勤 蔵重聡美 植松陽香
非常勤 月0名 火1名 水1名 木1名 金1名

『2024年度の目標』

- ・本格的にアフター・ウイズコロナ体制とし、手術増患に対応していく。
- ・無散瞳広角眼底カメラで検出した無症状網膜裂孔に対しての光凝固治療件数を増やす。

2. 診療実績

2022年度		2023年度		2022年度手術		2023年度手術	
外来患者数	6,830	外来患者数	6,007	水晶体再建術	249	水晶体再建術	311
初診患者数	697	初診患者数	684	硝子体茎	120	硝子体茎	151
入院患者数	1,199	入院患者数	1,405	顕微鏡下離断術		顕微鏡下離断術	

耳鼻咽喉科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当院耳鼻咽喉科では紹介状なしでも診察時間内であれば受診されたすべての患者様を診察するよう心がけています。頭頸部・咽喉頭・鼻腔領域では、血液検査、ファイバー検査、CT 検査、MRI 検査、超音波検査などで腫瘍、感染疾患に対応しています。内耳領域では、聴力検査、ティンパノメトリー、重心動揺検査、ENG 検査、vHIT、前庭誘発筋電位 (VEMP)、シェロング試験、CT 検査、MRI 検査 (内耳造影 MRI は協力病院にて施行可能) など大学病院にも劣らない設備で内耳疾患に対して精査をすることができます。

『スタッフ』

常勤医 1 名 (白石 功) で日々の診療に携わっています。

『2024 年の目標』

2024 年度も引き続き現状を維持しつつ、疾患管理に努めてまいります。

2. 診療実績

めまい検査、難聴検査を水曜日以外毎日行っています。APD に対する APT 検査も長期間待つことなく行えます。両検査 2023 年も 100 件を超えています。

2021 年		2022 年		2023 年	
外来患者数	3,015 人	外来患者数	3,513 人	外来患者数	3,758 人
入院患者数	155 人	入院患者数	86 人	入院患者数	25 人
めまい検査件数	111 件	めまい・難聴検査件数	195 件	めまい・難聴検査件数	180 件

放射線科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

病院理念に基づき、放射線科では患者様・受診者様へ安全で、安心できる検査を提供するための被ばく線量低減に務め、チーム医療の一員として行動し自己研鑽を積んでいる。

また、引き続き地域医療機関からの検査を積極的に受け入れ、第一線の地域医療を担うかかりつけ医の皆様へ尽力いたします。

『スタッフ』

放射線科部長 森田 吉多佳 日本専門医機構 認定放射線科専門医

診療放射線技師 19名

『2024年度の目標』

全診療科の診療患者、健診受診者からの検査依頼に対して迅速なCT、MRI検査等を実施し、検査後速やかに診断レポートを提供している。2023年度の部門別全検査前年度比は健診部門85%、診療部門107%、地域医療機関からの病診連携を介した大型医療機器検査では、前年度比CT検査108%、MRI検査143%と増加した。

今年の8月からクラウド型画像サーバーの稼働と、2025年4月から新しい健診システム導入のため院内PC環境やネット回線などのハードソフト更新を行い最適な画像診断システム構築を目指す。

今後も柔軟な対応を心がけPR活動を行いながら地域の先生方と密に連携し、医療レベル向上に寄与していきたい。患者様・受診者様に対しては丁寧なコミュニケーションを取り、安心・安全な医療を目指すべく日々努める。

2. 診療実績

健診部門検査件数

項目	2022年度	2023年度	前年度比
一般撮影 (胸部)	67,932	59,528	88%
CT検査 (胸部)	918	878	96%
MRI検査 (頭部)	1,024	869	85%
マンモグラフィ	8,229	7,272	88%
胃透視検査	18,129	13,287	73%
骨密度	1,283	1,248	97%

診療部門検査件数

項目	2022 年度	2023 年度	前年度比
一般撮影	10,410	10,865	104%
CT 検査	4,291	4,725	110%
MRI 検査	3,181	3,509	110%
マンモグラフィー	400	427	107%
透視検査	498	620	125%
骨密度	680	791	116%
心臓カテーテル検査	637	642	101%
病診連携 CT 検査	62	67	108%
病診連携 MRI 検査	133	190	143%

放射線科外来件数

2022 年度	2022 年度	前年度比
706	716	101%

3. 業績

【院内研修・発表】

診療用放射線に関する安全管理 2023 年 8 月 3 日

MRI 検査 安全講習 2023 年 12 月 14 日

【各種認定資格者】

日本専門医機構認定放射線科専門医 1 名

検診マンモグラフィー撮影認定技師 7 名

X 線 CT 撮影技師認定技師 5 名

日本消化器がん検診学会胃がん検診専門技師 3 名

胃 X 線読影補助認定技師 2 名

肺がん CT 検診認定技師 1 名

血管造影 (IVR) 技師認定技師 1 名

救急撮影認定技師 1 名

日本磁気共鳴専門技術者認定機構 MRI 専門技術者 1 名

※重複取得あり

【施設基準】

画像診断管理加算 2 取得施設

麻酔科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当科の方針は、手術患者の術前評価を的確に行い、麻酔合併症を起こさないことです。

1階入退院センターに術前外来を設け、麻酔説明ビデオ視聴、麻酔科医診察、手術看護師説明を行い、そのうえで、患者様に一番適した麻酔法、術式を計画しています。

手術室には、腹腔鏡に適した人工呼吸のできる最新の麻酔器を導入しています。

また、手術患者様の不安の多くは、手術後痛いのではないかとこのころにあります。麻酔科医、薬剤師、看護師など多職種からなる「術後疼痛管理チーム」を結成し、よりよい術後疼痛管理ができるように努めています。

当院は、麻酔科医全員が、麻酔科専門医であり、質の高い麻酔を提供し、患者様の安全安心を一番に考えています。

『スタッフ』

麻酔科部長	早助弓子	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医
麻酔科主任	萬代裕子	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医
麻酔科主任	朝倉芳美	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医
麻酔科主任	松田千栄	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医
麻酔科主任	春日千春	日本専門医機構認定麻酔科専門医	日本麻酔科学会指導医

『2024年度の目標』

昨年度から開始した術後疼痛管理チームの活動拡大、周術期口腔機能管理の対象患者の拡大の二つを目標にします。

2. 診療実績

2022年度		2023年度	
麻酔管理手術件数	1,080件	麻酔管理手術件数	1,105件
婦人科	358件	婦人科	328件
整形外科	326件	整形外科	370件
外科	210件	外科	216件
泌尿器科	174件	泌尿器科	174件

2023年度は2022年度より麻酔科管理手術数が25件増加しました。

リハビリテーション科

1. 概要

『当科の方針と特徴』

当課は、整形外科の膝関節・股関節・肩関節の術後（関節鏡、人工関節置換術など）リハビリテーションを中心に行っている。膝・股関節人工関節置換術後のリハビリテーションでは、2020年からロボットリハビリテーション（Honda 歩行アシスト）を導入し、安定した歩行能力の早期獲得を目指している。また、患者様の動作パフォーマンスの向上やスポーツ復帰を希望される方への運動指導として、個々の競技特性に応じた各種トレーニングやピラティス専用器具を使用した運動療法も行っている。

『スタッフ』

リハビリテーション科 部長 坪田 次郎
リハビリテーション課 係長 平野 弘臣
吉田 昌広、大村 貴子、秋山 恵津子
益原 理緒、長廻 雄大

『2024年の目標』

リハビリテーション技術と接遇力の向上に努め、チーム医療に貢献する

『施設基準認定』

運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）

2. 診療実績

リハビリ実施件数（外来・入院）

外来患者件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年	87	80	82	94	98	114	130	123	126	132	102	137	1,305
2023年	108	130	140	124	120	97	106	91	95	66	60	68	1,205

入院患者件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年	777	694	904	845	752	724	684	710	832	640	754	836	9,152
2023年	839	814	940	841	825	722	755	848	825	692	758	813	9,672

3. 業績 その他の活動

院内職員向けの福利厚生として「健康増進運動教室開講中（ピラティスレッスンなど）」

薬剤課

1. 概要

『部署の方針と特徴』

「医療の担い手として生命を尊重し、患者様の安全と安心に貢献し、適切な薬物治療を提供します。」を薬剤課の理念とし、業務に取り組んでいる。薬剤管理指導業務は投薬のある入院患者様に対し2023年度も実施率ほぼ100%を維持してきた。2021年より参加のペリオ外来は新たに泌尿器科を拡げより多くの患者様と入院前から関わっている。「タスクシフト」における薬剤師の役割も意識し、治療が安全に進むよう業務に携わっている。

『スタッフ』

薬剤師 10名・事務員 1名

『2023年の目標』

薬剤課理念に基づき、チーム医療の一員として薬物治療に貢献していく。

2. 診療実績

処方箋枚数

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来院外	5213	5330	5501	5294	5251	5194	5540	5183	5607	5172	4985	5218	63488
外来院内	8	10	6	2	12	9	11	2	8	10	3	7	88
外来注射	285	313	338	301	334	309	314	304	324	316	283	313	3734
入院処方	3020	2665	3174	3042	2802	2449	2922	2911	3101	2770	3007	3321	35184
入院注射	1003	857	1058	1087	1026	855	891	943	1037	816	910	983	11466

薬剤管理指導算定件数

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
指導件数	631	643	666	655	637	519	617	619	605	566	604	651	7413

無菌調剤件数

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
抗癌剤	7	10	5	6	6	5	5	7	8	7	8	5	79
その他	8	3	8	8	10	9	9	5	7	8	7	9	91

ペリオ外来件数

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	15	15	17	15	9	18	13	17	16	19	13	19	186
整形外科	23	42	26	33	26	29	30	42	25	37	30	37	390
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	13	17

3. 業績

【治験】子宮内膜症患者を対象とした NS 580 の用量設定試験（後期第 II 相）〈日本新薬株式会社〉 2024. 2. 29 治験終了。

臨床検査課

1. 概要

【部署の方針と特徴】

部門のモットーは「正確な検査結果を迅速に提供する」。

- ・7月より部門名称が中央検査部から臨床検査課となり、組織体制は今までの検査部門に耳鼻科検査および眼科検査を含む部門となった。
- ・人員面では、臨床検査技師を2023年4月に新卒者1名、既卒者1名、年度途中で若手の既卒者2名採用した。退職者が2024年2月に1名、3月に1名あり。また視能訓練士は11月に退職者が1名あった。非常勤病理医師は3名から2名への体制となった。
- ・検体検査室は10月から迅速検査機器ラピッドピアⅡを2台導入して、プロカルシトニン・トロポニンⅠ定量・H-FABP定量を開始した。(導入はFMS契約による)
- ・生理検査室の扉前に検体検査室作成の検体検査案内(項目解説)を設置して、待ち時間などに読んでもらえるようにした。当初ニーズがどの程度あるか不明であったが、現在では非常に多くの患者さんが手に取り持ち帰っていただいている好評である。
- ・11月からPSG検査を開始、病棟の協力が不可欠となっており、看護課の過度の負担とならない様に注意して運用している。
- ・9月末に健康管理センターの眼圧計(トプコンCT-800A)を1台更新した。
- ・認定資格については、超音波検査士(領域追加)2名、精度保証管理技師1名が取得となった。
- ・教育面では、5/16~6/23に臨地実習生1名(長浜バイオ大学)を受け入れた。
- ・7月に参加した日本医師会精度管理調査の結果は98.6点となり、良好な結果であった。
- ・災害医療対応車両Medical-ConneX搭乗員2名は赤穂中央病院(兵庫県赤穂市)でのメンテナンス習得や兵庫県内での訓練や展示イベントに参加した。

【スタッフ】

課長 坂東 雅彦 係長 高田 みか子

(正職員) 臨床検査技師 36名、視能訓練士 2名 (非常勤) 病理医 2名

(準職員) 臨床検査技師 3名、視能訓練士 7名、眼科検査員 1名

(嘱託職員) 臨床検査技師 1名

【認定資格取得状況】

超音波検査士 15名 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理技師 2名、細胞検査士 3名

国際細胞検査士 2名 認定輸血検査技師 1名 認定血液検査技師 1名

二級臨床検査士 9名 (循環生理学、免疫血清学、血液学、臨床化学、病理学)

緊急臨床検査士 10名 総合健診指導士 1名 日本乳がん検診(A・B評価) 4名

AMAT 隊員 2名 臨地実習指導者 1名 多職種リーダー研修 1名 ※重複取得あり

【2024 年度の目標】

「医療事故防止体制を厳守して、患者取違えや転倒などの重大インシデントの発生をゼロにする。」を念頭に置き業務を遂行する。

2. 検査実績

前年度比では病理組織検査以外は減少、4 月から 8 月までの健康管理センター受診者の減少をきっかけとして年度末まで影響が続いた事が要因である。

	2022 年度	2023 年度
生化学検査	1,656,149	1,570,450
血液学検査	165,267	157,036
一般検査	218,423	194,603
免疫血清学検査	131,361	119,674
細胞診検査	17,092	15,451
病理組織検査	2,273	2,427
超音波検査（心臓）	3,628	3,157
超音波検査（腹部・表在等）	50,846	48,220
呼吸機能検査	18,712	18,040
心電図検査	77,190	68,749
トレッドミル検査	1,760	1,738
ホルター心電図	355	345
血圧脈波・肛門内圧検査	716	620

3. 業績

【学会・研究会】

1. 四宮 阿弥、岡田 愛美、佐藤 令奈、高島 阿由梨、高田 みか子、坂東 雅彦：
健診システムにおける「誘導支援」導入の効果；第 64 回全日本病院学会 in 広島；2023 年 10 月 14-15 日；広島県広島市

【座長・司会】

1. 山本 真大 「一般演題 48-心-8 心臓（その他）」：第 48 回日本超音波検査学会学術集会；
2023 年 6 月 10-11 日；大阪国際会議場 大阪市北区
2. 坂東 雅彦 「SEKISUI セミナー」；2023 年 7 月 27 日；積水メディカル 大阪市淀川区
3. 坂東 雅彦 「増え続ける生活習慣病による脂肪性肝疾患に我々はどう対処するべきか」
第 34 回生物試料分析科学会年次学術集会；2024 年 3 月 23 日；大阪工業大学
梅田キャンパス OIT タワー 大阪市北区

臨床工学課

1. 概要

臨床工学部は、2018年4月より独立し新設された。技術の向上に励み、他職種との連携を深めチーム医療に貢献し、より質の良い医療を患者様・スタッフに提供することを目標に様々な臨床に携わっている。

スタッフ 医療技術部 臨床工学課 臨床工学技士 3名

2. 診療実績

血管造影業務

心臓カテーテル検査・治療、心臓ペースメーカーの植え込み、経皮的カテーテル心筋焼灼術など関連機器の操作、使用材料の管理を行っている。

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CAG	24	24	22	21	28	25	22	20	21	21	22	27	277
PCI	17	19	25	21	16	22	19	19	24	16	13	16	227
PTA	2	2	2	1	2	2	1	1	0	2	3	1	19
ABL	8	8	8	7	4	6	8	8	8	8	8	8	89
PMI	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	3	4	12
他	5	1	1	1	1	0	3	0	0	0	4	3	19
PM外来	19	11	11	17	15	11	15	8	13	18	16	17	171

血液浄化業務

血液透析、血漿交換、LDLアフェレーシス、血液吸着、他特殊浄化を行っている。

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	2	1	5	1	4	3	1	1	3	4	2	0	27
DFPP	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	13
LDL-A	22	19	24	21	26	26	19	19	21	18	22	20	257
他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3

手術室業務

手術支援ロボット（泌尿器科：Davinci 整形外科：MAKO）

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Davinci	3	4	1	3	1	2	3	3	3	2	2	2	29
MAKO	21	16	24	21	18	23	22	20	20	23	22	20	250

医療機器管理業務

院内の様々な医療機器の保守・修理・点検を行い安全に使用できるよう管理運営している。

輸液ポンプ・シリンジポンプ・セントラルモニター・ベッドサイドモニター・パルスオキシメーター・PCPS・IABP・IVUS など

栄養課

1. 概要

『部署の方針と特徴』

入院患者に対して正しく栄養評価を行い適切な栄養サポートを実践する。栄養指導においては患者個人に見合った食事指導を展開し合併症の進展防止や重症化予防につながるよう取り組んでいる。

『スタッフ』

管理栄養士 3 名（糖尿病療養指導士 2 名、病態栄養専門管理栄養士 1 名）

給食委託会社スタッフ（管理栄養士 2 名、栄養士 2 名、調理師 2 名、調理作業員 13 名）

『2024 年の目標』

栄養介入が必要な患者に対して多職種と共同して栄養管理を行い、栄養状態の維持および改善に努める。生活習慣病、糖尿病透析予防指導等の個別栄養指導において CDEJ の資格を活かした内容を展開する。栄養介入で得られた結果を分析し日々の栄養管理、栄養指導業務に反映させるとともに入院食事内容の充実化を図る。

2. 診療実績

2023 年度栄養指導実績

(単位：件)

2023 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
入院	98	86	116	102	84	91	91	76	96	68	65	81	88
外来	108	98	132	112	113	121	105	87	126	82	93	118	108
集団指導	8	4	5	9	7	5	6	4	0	4	4	2	5

2023 年度特食加算

(単位：%)

2023 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
特食加算	40	38	38	38	27	32	38	32	33	30	24	30	33

3. 業績

【学会発表】

1. 片山弥生、天王寺谷彩奈、岡田美織、奥谷美栄子、山辺鈴佳、竹内千里、井上智香子、山木香名、武内真有、南 雄三、美内雅之

糖尿病診療におけるパターンテンプレート（食環境評価）の有用性の検討

～医療者間での情報差が血糖管理に与える影響～

第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会

2. 片山弥生、岡田美織、天王寺谷彩奈、山辺鈴佳、竹内千里、奥谷美栄子、山木香名、南 雄三、美内雅之

肥満糖尿病症例における栄養状態と腎機能変化（年間 eGFR 変化量）の関連性の検討

第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会

看護部

1. 概要

『部署の方針と特徴』

看護部の理念は「共にあゆむ最善の看護」で、患者様やご家族と共に医療スタッフと共に安全で良質な看護を提供することです。看護部の基本方針は「個別性を大切にする看護」、「チーム医療の推進」、「自己研鑽と意識改革」です。健診における予防から治療に至るまで受診者様や患者様を取り巻くすべての人々と協働し、看護の力が最大限に発揮できるよう取り組んでいます。

『スタッフ構成』 看護師 病棟：65名（平均年齢：36.6歳）

外来その他：86名（準職員・産休・育休含む）

平均在職年数：9.7年 離職率：12.0%

看護補助者：16名 内視鏡洗浄員：5名 中材滅菌洗浄員：6名

『看護体制』

急性期一般入院料1（7：1）重症度、医療・看護必要度Ⅱ

2交替制（病棟）固定チームナーシング受け持ち制

看護職員夜間配置加算（12対1加算1）

25対1急性期看護補助体制加算（看護補助者5割未満）

看護補助体制充実加算

『看護実践面』

認知症ケア加算3

せん妄ハイリスク患者ケア加算

糖尿病透析予防指導管理料

入退院支援加算2・入院時支援加算2

患者サポート体制充実加算

術後疼痛管理チーム加算（2023年4月取得）

『2024年の目標』

1. 2024年度診療報酬改定に沿った急性期入院基本料1の維持
2. 業務改善・多職種との協働/人員確保と定着
3. 患者受診者満足の向上・接遇強化
4. 安心・安全な医療の提供/身体的拘束の予防・最小化
5. 生涯学習支援/看護管理者・実習指導者の育成
6. 病床稼働率の上昇
7. 看護補助体制充実加算1の取得
8. 排尿自立支援加算の取得

看護必要度（%）

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10階病棟	48.0	35.6	43.4	43.7	42.7	47.8	45.3	40.7	46.3	47.3	45.6	45.9
11階病棟	37.5	45.2	31.0	31.9	36.6	41.9	40.8	30.7	41.4	38.8	49.9	43.5
12階病棟	54.7	58.6	57.4	54.3	54.0	57.9	57.6	53.9	53.2	50.6	46.6	56.2
3病棟合計	47.4	45.3	43.3	43.6	44.5	49.3	48.2	42.0	47.3	46.0	47.0	48.5

2. 委員会活動実績

	目標	実績
看護教育委員会	1. 当院実施事業とキャリアアップに応じた院内教育研修を企画・運営する	全部署参加者のべ121人、理解度100%、応用74%、べ193%であった。全て対面研修で実施。研修資料はSSIに保管し共有できた。e-ラーニング総アクセス率は91.2%で活用度は高かった。
	2. 研修と自己学習に意欲的に取り組めるよう教育的環境を構築する	
安全推進委員会	1. インシデントレポートを分析・共有し看護実践に活かす	毎月各部署1例以上のインシデントまたはKYTを実施。市北支部交流会及び伯鳳会GのWeb会議内容を伝達した。2例動画を視聴し意見交換を行った。隔月刊誌を回覧し自己学習した。転倒・転落フォーチャート方式へ変更した。身体拘束に関する基準を見直しマニュアル内の基準を改訂した。
	2. 知識を深め潜在的な危険に気付く力を身につける	
	3. 転倒・転落事故予防対策マニュアルを作成し周知する	
看護記録委員会	1. 記録監査を再導入し看護の質の向上を目指す	各部署での記録監査を実施し、委員会で報告、意見交換した。大阪府看護協会開催の「看護記録のあり方を学ぶ」の伝達講習実施。疼痛スケールの変更、ペーサー・貼付型血糖センサー入力場所の統一7桁のフォーマット修正、人工呼吸器設定用紙の導入。
	2. 記録に関わる現状の問題点を解決する	
感染リンクナース会	1. 標準予防策・感染経路別予防策が標準化する	ICTメンバーと環境ラウンド（年6回）実施。環境ふき取り検査、PPE着脱練習実施。蛍光剤を使用し手袋のピソールの汚染度、外す際の汚染度を見える化嘔吐セット内の次亜ハック使用期限の統一。手指消毒剤使用量をエクセル自動計算表を使用して測定した。
	2. 持続可能な感染対策の導入が定着できる	
実習指導者会	1. Z世代及びコロナ禍での実習経験のみである学生のレベルを把握し支援ができる	関西看護成人Ⅱ20名、大阪医専基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ35名に院内オリエンテーション実施。実習開始前、担当者に要綱や自己評価表を使用し目的や内容を説明した。9月に臨地実習指導者研修の学習会を実施し、最新の学生の状況や指導方法を共有した。
	2. 実習指導担当者と知識を共有し互いに成長することができる	
看護係長会	1. 新人看護職員教育システムの充実	入職時のオリエンテーションは予定通り実施。土曜半日を利用して採血・血管確保の練習、夜勤オリエンテーション実施。毎月、新入職者の状況報告を行い支援方法を話し合った。他部署見学レポートは学びの内容が把握しやすいよう内容を改訂した。中途採用者の面談タイミングを増やし支援状況を共有した。支援者にはレポートマニュアルを説明し活用できた。
	2. 中途採用者の支援体制の確立	
看護補助者会	1. 日常業務を見直し、問題点が解決できる	病棟・外来で実施している業務を洗い出し、マニュアル内容を修正・追加した。業務上の疑問や提案事項を話し合い、電子カルテからの情報収集方法を確認した。年12回のe-ラーニングとマニュアルを活用し、業務の注意点を確認し3つの実技を実施できた。
	2. 看護補助者業務に必要な知識・技術が習得できる	

3. 臨地実習指導実績

大阪医専看護専門学校

実習科目	学年	実習期間	人数	総人数	実習指導者数	
統合実習	第4学年	5/29～6/9 (10日間)	9名	44名	20名	左記人数の内
基礎看護学実習Ⅰ	第1学年	7/10・7/11 (2日間)	15名			講習終了者8名
基礎看護学実習Ⅱ	第2学年	6/19～6/27 (6日間)	10名			
基礎看護学実習Ⅲ	第2学年	11/6～11/21 (10日間)	10名			

関西看護専門学校

実習科目	学年	実習期間	人数	総人数
成人看護学実習Ⅱ	第4学年	5/8～5/26 (12日間)	10名	20名
成人看護学実習Ⅱ	第4学年	9/4～9/22 (12日間)	10名	

4. 看護研究実績

- ・ 第4回伯鳳会グループ学術発表会 (東京) 2023年8月
「アブレーションを受ける患者の抑制帯設置板作成～良肢位を考慮した抑制方法の統一を試みて～」4階検査課
- ・ 第64回全日本病院学会 (広島) 示説発表 2023年10月
「急性期混合病棟で働く看護師のストレス実態調査」10階病棟課

健康管理センター

1. 概要

『健康管理センターの方針と特徴』

2022年度の総受診者数は71,949人（人間ドック受診者数15,241人）と、過去最高（コロナ感染症蔓延前の2019年度：総受診者数73,800人、人間ドック受診者数14,400人）に近い水準まで回復していたが、2023年度は伯鳳会グループの健診機関として4月から6ヵ月間の協会けんぽ生活習慣病健診受け入れ停止処分を受けたことなどにより、総受診者数は63,568人（人間ドック受診者数15,680人）と減少した。

当センターは総合病院併設型の健診施設で計3フロアから構成され、受診当日に結果説明・保健指導を実施する人間ドックを6F・8Fで、当日の結果説明は実施されないが必要な受診者に対して受診勧奨・保健指導が行われる一般健診を8F・9Fで行っている。

2000年以降の健診データ、2008年以降の画像・心電図データはすべてサーバーに保管されており、必要時に過去データの参照が常に可能であることが健診・検診精度の向上に寄与している。さらに病院併設型健診施設のため各診療科との連携が緊密であることにより、要受診・要精密検査と判定された受診者の診療科外来予約が容易・円滑となっている。また、診療科外来と健診部門で共通の受診者IDを使用していることから、診療科外来への紹介状作成・受診者データ伝達および健診部門における診療科外来受診結果の把握が円滑に行われている。健診から各診療科外来への紹介患者総数は、2023年度は3,446名（外来初診患者総数8,332名のうち41.4%）と高比率であった。

当センターの運営方針は、受診者の皆様に「信頼」され「納得」いただける健診・検診を「平等」に提供することであり、そのために全職員が常に受診者の皆様に対する共感力と自己に対する向上心を持ちながら受診者の皆様ひとりひとりにしっかりと寄り添う健診・検診施設であり続けることを目指している。また、「要受診・要精密検査」の判定がなされた場合の精神的負担（特にかん検診で顕著となる）および精密検査受診の際に生じる経済的・時間的負担などの健診・検診の「不利益」を可及的に最小化するため、受診を希望される検査の選択を判断する際に必要となる情報を医療面接・ホームページ含め十分に提供するとともに、健診・検診における要精密検査率を許容範囲内とするために検査を実施する技師および結果を判断・説明する医師の多くが関連学会・機構から健診・検診を実施するにおいて必要とされる資格を取得・更新しており、かかる資格取得を推奨・サポートする体制を施設としても整えている。さらに、健診・検診の質を客観的に評価して質の向上に反映させるため、学会および健診関連各種団体の精度管理調査・全国集計調査および優良施設認定審査に積極的に参加している。

『健康管理センターのアピールポイント』

① 脳ドックプレミアムコース

脳卒中（くも膜下出血・脳梗塞・脳出血など）の発症リスク評価、潜在している脳腫瘍の発見、物忘れ（良性加齢性健忘か？本物の認知症か？治療で治る認知症か？）の鑑別を行い、受診

当日に担当する脳神経外科専門医/脳神経内科専門医が総合評価について説明を実施している。

② 心臓ドック

冠動脈狭窄に起因する心筋虚血の有無および交感神経優位の状態における危険な不整脈誘発可能性を評価する運動負荷心電図検査、心臓弁の状態および心機能を評価する心臓超音波検査、全身の動脈硬化の状態を評価する頸動脈超音波検査、血管年齢の推定が可能な血圧脈波検査および各種心臓バイオマーカー血液検査結果を総合的に評価して、受診当日に循環器専門医が総合評価について説明を実施している。

③ 女性専用フロア設定

人間ドックでは第1金曜日午前・第2土曜日午前を、一般健診では第3金曜日午後を女性受診者のみが受診できる女性専用フロアとして設定しており、ドック結果説明と胃透視・胃カメラ検査を除くすべての検査を女性医師・技師が担当している。

④ 最新の上部内視鏡検査（胃カメラ）システムと胃がん発症リスクに基づく胃透視検査

胃カメラ検査では検査時に胃がん病変を発見することだけでなく、胃がん発症の危険因子であるヘリコバクターピロリ菌感染の有無を胃炎京都分類に従い判断することが重要であるため、当センターでは2018年5月より富士フイルムメディカル社の新しい内視鏡システム（FUJIFILM LASEREO7000）と上部消化管用経鼻内視鏡（EG-L580NW7）を導入した。通常観察の白色光に加えて2種のレーザー光、すなわち粘膜表面の毛細血管の構造を強調するBLI(Blue Laser Imaging)および粘膜表面の赤色領域と周囲のコントラストを強調するLCI(Linked Color Imaging)の3種類の画像を組み合わせることで、より高い精度の診断が可能となっている。

また、上部消化管検診として現在なお重要な役割を果たしている胃透視（バリウム）検査においても、胃がん発症の危険因子であるヘリコバクターピロリ菌感染・除菌歴の有無を反映させた所見および判定結果の提示を行っている。

⑤ 健診誘導支援システムの導入

2019年5月より、受診者の皆様がより快適に健診・検診を受診していただけるよう各検査での待ち時間の短縮を目的として、各検査終了時に待ち時間の少ない次の検査へご案内することを可能とする誘導支援システムを導入した。さらに、当センターは3フロアから構成されており同じ検査を実施する検査室が各フロアに分散するため、検査の待ち時間の短縮と同時にフロア間の移動をできるだけ少なくすることについても配慮されるよう設計されている。

⑥ 施設認定について

- ・ 人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・ 日本総合健診医学会優良総合健診施設
- ・ 健康評価施設査定機構認定施設
- ・ 人間ドック健診専門医制度人間ドック健診研修施設
- ・ 健保連人間ドック指定施設
- ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診実施施設
- ・ 大阪市前立腺がん・乳がん・大腸がん検診実施施設、大阪市前立腺がん・乳がん・大腸がん精密検査協力医療機関

- ・ 日本がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設・画像認定施設
- ・ 日本乳癌検診学会 登録認証施設

『スタッフ』

健康管理センター長：弓場 健義

健康管理センター所長：桑迫 崇裕（雨宮 彰：～2023年3月31日）

健康管理センター専従・常勤医師：前田 健次、藤間 美帆、江崎 久男、辻野 晶子、岩本 有里子、倉敷 有紀子、大野 秀樹、大家 学、池上 陽一、北島 孝一、乾 哲也、小林 哲郎
（特別顧問）

『診療日程』：すべて予約制（詳細はホームページを参照ください。）

- ・ 人間ドック：月～金曜午前、月～第2～5金曜午後、第2・4土曜午前
- ・ 一般健診：月～金曜午前・午後、第2・4土曜午前
- ・ 脳ドック：火曜午後
- ・ 心臓ドック：木曜午後

『2024年度の目標』

これまでどおり受診される皆様に「信頼と納得」いただける健診・検診を「平等」に提供できるよう万全の準備・接遇を継続する。そのうえで2024年度は総受診者数71,030人以上、人間ドック受診者数15,700人以上を達成するとともに、受診者の皆様の満足度を反映する指標と考える反復受診率を引き続き80%以上とするため、皆様に「信頼と納得」を実感していただける健診施設であり続けることを目標とする。

また、胸部レントゲン診断支援AIシステム・上部消化管内視鏡診断支援AIシステムおよびテラーメイド健診の構築を目的として各受診者の健診結果に基づく受診者ごと将来の疾病発生予測AIシステムの導入について鋭意準備中である。

さらに、人気が高く予約が大変取りにくくなっており迷惑をおかけしている上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）の受診枠拡大、そしてより快適な受診環境の実現についても健診フロア改装・増設を含め将来に向けて準備中である。

2. 診療実績

	2022年度(2022/04－2023/03)	2023年度(2023/04－2024/03)
人間ドック（半日ドック）	15,241	15,546
人間ドック（1泊ドック）	64	88
一般健診（当日結果説明なし）	56,055	47,414
脳ドック	36	22
心臓ドック	17	24
大阪市がん検診（乳房・大腸・前立腺）	176	171

子宮がん検診（超音波併用）	14,952	13,547
脳 MRI/MRA	1,024	869
胸部 CT（低線量肺がん検診）	918	874
マンモグラフィ	8,229	7,191
上部消化管造影（胃透視）	18,129	13,287
上部消化管内視鏡（胃カメラ）	17,561	16,205
心電図検査	68,110	59,897
超音波検査	42,684	40,454

3. 業績

『学会発表』

1. 楠瀬恵里子, 松浦尚子, 田中登紀子, 藤本千春, 本多はる菜, 松村仁美, 雨宮彰, 前田健次, 弓場健義: 40歳未満の生活習慣病予防を考える～30歳代男性ドック受診者の結果より～: 第64回日本人間ドック学会学術大会: 2023年9月1-2日; 群馬県高崎市
2. 田中登紀子, 楠瀬恵里子, 松浦尚子, 藤本千春, 本多はる菜, 松村仁美, 雨宮彰, 弓場健義: 特定保健指導初回面接者数向上に向けたとりくみ: 第64回全日本病院学会 in 広島: 2023年10月14-15日; 広島市
3. 四宮阿弥, 岡田愛美, 佐藤令奈, 高島阿由梨, 高田みか子, 坂東雅彦: 健診システムにおける「誘導支援」導入の効果: 第64回全日本病院学会 in 広島: 2023年10月14-15日; 広島市

医事課

1. 概要

【部署の方針と特徴】

患者様・健診受診者が安心していつでも当院をご利用いただけるよう、愛情と尊敬をもって接し、常日頃から信頼されるよう最良な対応を心掛けます。またより良い健康サービスを提供するために自己研鑽に努め、グループ・組織へ貢献できるよう常に意識します。

【スタッフ】

医事課長 1名 ・ 医事課係長 1名

医事課職員 33名（入院・外来係 23名・診療情報管理係 2名・クレーク係 8名）

【2024年の目標】

2024年度診療報酬改定の準備（情報収集と関連部署への情報提供）

正確な診療報酬算定・返戻、減点防止改善策実施

取得施設基準項目の維持・上位取得・迅速な変更手続き等

医事課の安定（課員の定着率向上・業務の画一化・時間外勤務の削減）

2. 各科別患者数

単位：人

		2023年度													合計
		内科	消化器内科	循環器内科	内科3科計	外科	整形外科	皮膚・形成外科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科		
4月	入院	108	93	417	618	997	679	113	234	219	113	2		2,975	
	外来	1,072	540	1,730	3,342	1,544	805	447	878	530	461	358	63	8,428	
	合計	1,180	633	2,147	3,960	2,541	1,484	560	1,112	749	574	360	63	11,403	
5月	入院	27	68	362	457	922	740	83	204	163	163	2		2,734	
	外来	998	532	1,807	3,337	1,618	841	460	973	571	491	399	66	8,756	
	合計	1,025	600	2,169	3,794	2,540	1,581	543	1,177	734	654	401	66	11,490	
6月	入院	173	121	460	754	890	760	80	250	182	127	20		3,063	
	外来	1,200	660	1,769	3,629	1,681	854	494	958	494	572	331	67	9,080	
	合計	1,373	781	2,229	4,383	2,571	1,614	574	1,208	676	699	351	67	12,143	
7月	入院	160	126	461	747	985	745	60	262	223	137	0		3,159	
	外来	1,131	592	1,781	3,504	1,494	817	506	909	460	485	372	71	8,618	
	合計	1,291	718	2,242	4,251	2,479	1,562	566	1,171	683	622	372	71	11,777	
8月	入院	130	123	400	653	890	660	56	213	231	138	0		2,841	
	外来	1,063	582	1,665	3,310	1,569	838	464	964	504	485	300	62	8,496	
	合計	1,193	705	2,065	3,963	2,459	1,498	520	1,177	735	623	300	62	11,337	
9月	入院	81	100	383	564	852	540	18	183	147	111	3		2,418	
	外来	1,120	591	1,689	3,400	1,564	768	432	951	425	496	342	56	8,434	
	合計	1,201	691	2,072	3,964	2,416	1,308	450	1,134	572	607	345	56	10,852	
10月	入院	62	62	357	481	959	639	35	225	169	132	0		2,640	
	外来	1,092	642	1,884	3,618	1,720	795	475	1,049	549	524	328	62	9,120	
	合計	1,154	704	2,241	4,099	2,679	1,434	510	1,274	718	656	328	62	11,760	
11月	入院	123	149	394	666	905	692	67	210	177	95	0		2,812	
	外来	1,058	588	1,699	3,345	1,605	791	399	969	476	538	336	52	8,511	
	合計	1,181	737	2,093	4,011	2,510	1,483	466	1,179	653	633	336	52	11,323	
12月	入院	48	45	470	563	1,034	766	56	215	179	98	0		2,911	
	外来	1,144	573	1,867	3,584	1,786	801	400	984	480	520	301	43	8,899	
	合計	1,192	618	2,337	4,147	2,820	1,567	456	1,199	659	618	301	43	11,810	
1月	入院	82	79	335	496	848	624	49	218	154	112	2		2,503	
	外来	1,065	547	1,703	3,315	1,681	729	397	891	497	494	366	48	8,418	
	合計	1,147	626	2,038	3,811	2,529	1,353	446	1,109	651	606	368	48	10,921	
2月	入院	31	88	323	442	1,033	761	42	231	154	102	9		2,774	
	外来	1,058	557	1,629	3,244	1,617	724	399	862	466	446	266	55	8,079	
	合計	1,089	645	1,952	3,686	2,650	1,485	441	1,093	620	548	275	55	10,853	
3月	入院	57	131	414	602	1,141	801	13	219	163	77	2		3,018	
	外来	1,117	630	1,674	3,421	1,710	787	400	1,041	476	495	262	71	8,663	
	合計	1,174	761	2,088	4,023	2,851	1,588	413	1,260	639	572	264	71	11,681	
合計	入院	1,082	1,185	4,776	7,043	11,456	8,407	672	2,664	2,161	1,405	40		33,848	
	外来	13,118	7,034	20,897	41,049	19,589	9,550	5,273	11,429	5,928	6,007	3,961	716	103,502	
	合計	14,200	8,219	25,673	48,092	31,045	17,957	5,945	14,093	8,089	7,412	4,001	716	137,350	
構成比	入院	3.2%	3.5%	14.1%	20.8%	33.8%	24.8%	2.0%	7.9%	6.4%	4.2%	0.1%		100.0%	
	外来	12.7%	6.8%	20.2%	39.7%	18.9%	9.2%	5.1%	11.0%	5.7%	5.8%	3.8%	0.7%	100.0%	
	合計	10.3%	6.0%	18.7%	35.0%	22.6%	13.1%	4.3%	10.3%	5.9%	5.4%	2.9%	0.5%	100.0%	

3. 各科別平均在院日数

単位：日

2023年度	内科	消化器内科	循環器内科	内科3科計	外科	整形外科	皮膚・形成外科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
4月	13.3	1.9	3.0	3.3	4.3	18.5	7.8	4.0	6.0	5.5	1.0	5.3
5月	10.0	1.6	2.9	2.8	4.1	20.1	7.3	4.4	5.4	3.9	1.0	5.2
6月	24.1	3.2	3.1	4.2	4.0	20.2	7.4	5.3	5.2	4.0	19.0	5.6
7月	15.5	3.1	3.8	4.4	4.3	18.9	7.6	4.4	6.3	5.9	0.0	5.8
8月	19.2	2.2	3.6	4.0	3.9	16.8	4.5	3.3	6.5	4.7	0.0	5.1
9月	22.0	1.9	2.9	3.1	4.3	18.3	5.0	3.1	5.1	9.1	2.0	4.9
10月	24.0	2.0	3.0	3.3	3.9	22.9	3.6	3.7	5.4	4.3	0.0	5.0
11月	16.7	2.7	3.5	4.0	4.5	18.5	8.6	3.1	5.2	2.6	0.0	5.3
12月	14.7	1.3	3.5	3.5	4.9	17.5	5.1	2.9	5.2	3.8	0.0	5.4
1月	19.5	2.7	3.4	3.9	4.8	20.3	4.4	3.6	5.4	4.0	4.0	5.6
2月	14.5	2.3	2.9	3.0	4.7	18.8	3.7	3.5	5.3	4.6	16.0	5.4
3月	10.6	2.3	3.2	3.2	4.9	17.1	1.3	3.5	4.7	2.3	1.0	5.2
合計	17.1	2.3	3.2	3.6	4.4	18.8	5.7	3.7	5.5	4.3	5.7	5.3

4. 各科別診療収入

単位：点

入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比	前年度計	前年対比
内科	408,582	113,622	601,288	567,902	435,970	255,458	185,072	416,170	186,464	299,310	130,208	225,848	3,825,894	1.4%	3,799,936	100.7%
消化器内科	645,149	520,052	622,485	757,087	767,634	660,133	433,578	887,222	397,970	478,505	450,348	748,292	7,368,455	2.7%	6,745,229	109.2%
循環器内科	5,691,766	5,368,140	6,483,120	5,572,580	4,678,864	5,180,789	5,224,816	5,338,636	6,158,512	4,995,623	5,176,648	5,532,065	65,401,559	24.3%	65,922,675	99.2%
内科3科計	6,745,497	6,001,814	7,706,893	6,897,569	5,882,468	6,096,380	5,843,466	6,642,028	6,742,946	5,773,438	5,757,204	6,506,205	76,595,908	28.4%	76,467,840	100.2%
外科	5,361,438	5,077,284	5,143,612	5,100,450	4,837,023	4,524,255	5,261,729	4,622,127	5,485,384	4,564,736	5,316,232	6,260,755	61,555,025	22.8%	54,667,929	112.6%
整形外科	5,429,147	5,167,762	6,355,913	5,789,255	5,303,797	5,033,071	5,163,382	5,372,622	5,947,927	5,462,568	6,158,819	6,159,993	67,344,256	25.0%	63,741,761	105.7%
皮膚・形成外科	500,642	446,373	356,133	264,580	271,642	106,183	206,835	361,800	269,949	257,946	239,994	89,872	3,371,949	1.3%	3,809,769	88.5%
泌尿器科	2,012,346	1,634,144	1,908,626	1,918,714	1,731,756	1,377,375	1,797,424	1,770,212	1,980,512	1,635,378	1,769,237	1,539,488	21,075,212	7.8%	19,898,329	105.9%
婦人科	2,566,963	2,103,083	2,419,547	2,518,595	2,720,590	1,603,508	2,347,180	2,339,376	2,232,404	2,023,541	1,913,473	2,002,118	26,790,378	9.9%	29,000,485	92.4%
眼科	947,329	1,430,219	1,274,090	1,147,842	1,141,952	917,669	1,081,227	1,164,890	820,017	1,117,611	877,607	796,237	12,716,690	4.7%	10,875,849	116.9%
耳鼻咽喉科	11,412	10,658	61,183	0	784	17,066	30	0	1,140	9,144	28,188	11,802	151,407	0.1%	199,179	76.0%
合計	23,574,774	21,871,337	25,225,997	23,637,005	21,890,012	19,675,507	21,701,273	22,273,055	23,480,279	20,844,362	22,060,754	23,366,470	269,600,825	100.0%	258,661,141	104.2%
外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比	前年度計	前年対比
内科	1,403,318	1,230,634	1,550,109	1,403,833	1,408,612	1,381,434	1,349,057	1,271,936	1,352,907	1,325,362	1,314,910	1,373,239	16,365,351	12.8%	17,595,661	93.0%
消化器内科	1,518,969	908,789	1,569,645	1,382,624	1,513,092	1,433,294	2,084,603	1,359,072	1,610,020	1,794,515	1,259,107	1,749,108	18,182,838	14.2%	11,784,941	154.3%
循環器内科	2,842,349	2,917,525	2,776,230	2,820,313	2,537,465	2,615,221	3,055,682	2,770,550	2,876,122	2,804,195	2,705,296	2,646,179	33,367,127	26.1%	33,657,190	99.1%
内科3科計	5,764,636	5,056,948	5,895,984	5,606,770	5,459,169	5,429,949	6,489,342	5,401,558	5,839,049	5,924,072	5,279,313	5,768,526	67,915,316	53.1%	63,037,792	107.7%
外科	1,258,664	1,266,685	1,447,713	1,205,555	1,152,641	1,342,868	1,389,160	1,213,555	1,517,801	1,357,356	1,226,808	1,349,136	15,727,942	12.3%	16,093,359	97.7%
整形外科	960,525	1,082,158	1,086,428	1,040,692	970,268	966,280	955,000	1,016,688	1,037,355	967,045	877,584	961,170	11,921,193	9.3%	10,912,924	109.2%
皮膚・形成外科	240,932	227,558	238,945	277,600	217,342	202,240	202,025	187,498	177,380	190,403	204,347	202,445	2,568,715	2.0%	2,598,716	98.8%
泌尿器科	897,813	1,004,377	1,038,908	1,015,493	1,018,421	1,031,708	1,085,057	1,001,406	1,011,559	922,860	866,486	1,092,340	11,986,428	9.4%	11,299,709	106.1%
婦人科	395,898	432,290	369,572	334,150	354,644	332,003	428,645	354,203	346,271	351,399	362,578	338,916	4,400,569	3.4%	4,916,776	89.5%
眼科	654,428	780,403	733,233	761,422	812,752	613,447	740,405	747,506	728,183	615,504	639,553	684,646	8,511,482	6.6%	8,442,372	100.8%
耳鼻咽喉科	371,941	444,022	387,702	398,576	323,180	335,758	376,425	373,610	300,041	403,102	263,842	251,935	4,230,134	3.3%	3,991,153	106.0%
放射線科	60,266	56,055	52,086	64,012	51,086	44,103	77,077	69,230	64,884	75,648	61,306	56,392	732,145	0.6%	574,165	127.5%
合計	10,605,103	10,350,496	11,250,571	10,704,270	10,359,503	10,298,356	11,743,136	10,365,254	11,022,523	10,807,389	9,781,817	10,705,506	127,993,924	100.0%	121,866,966	105.0%
総合計	34,179,877	32,221,833	36,476,568	34,341,275	32,249,515	29,973,863	33,444,409	32,638,309	34,502,802	31,651,751	31,842,571	34,071,976	397,594,749		380,528,107	104.5%

詳細はホームページを
ご参照ください。



医療法人伯鳳会 大阪中央病院

外来診察担当表

TEL 06-4795-5505(代表)

FAX 06-4795-5535

	月		火		水		木		金		土 第2・4週
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
内科	内科	田邊 和也		南 雄三	南 雄三	桑迫 崇裕		南 雄三	南 雄三	北島 孝一 (1・3・5週) 倉敷 有紀子 (2・4週)	交代
	糖尿病・ 内分泌内科	小阪 佳恵	美内 雅之	美内 雅之		山木 香名	美内 雅之	井上 智香子	美内 雅之	山木 香名	
	呼吸器内科		宮武 明彦	宮武 明彦 (13:30~)			橋本 和樹				
消化器内科	岡本 佳子		山本 光成		佐々木 裕		平田 一郎		山本 光成	佐々木 裕 (13:30~)	
	大家 学										
循環器内科	柳 光司		柳 光司		柳 光司		梁 美和	梁 美和	柳 光司		
	西尾 崇高		西田 義治 樋口 理絵		西尾 崇高		西田 義治	循環器・ 禁煙外来 (13:30~)	西田 義治		
外科	消化器 外科	弓場 健義	相馬 大人	根津 理一郎		弓場 健義 安田 潤	相馬 大人		相馬 大人 /安田 潤	相馬 大人 /安田 潤	相馬/安田 IC外来
	乳腺・ 甲状腺外科	安田 潤	安田 潤 (生検)		小林 哲郎 (予約制)				富樫 優紗 (予約制)	小林 哲郎 (予約制)	光吉 歩 (第2週) (健診予約のみ)
	肛門外科	齊藤 徹	齊藤 徹	三宅 祐一朗		久能 英法	齊藤 徹	小野 朋二郎	久能 英法 三宅 祐一朗	小野 朋二郎	
整形外科	坪田 次郎 (一般・膝関節)	専門外来(予約制) 坪田 次郎 膝関節外来	林田 賢治 (一般・肩関節)	専門外来(予約制) 林田 賢治 肩関節外来	藪田 健太郎 (一般・膝関節)	専門外来(予約制) 坪田 次郎 膝・スポーツ外来	藪田 健太郎 (一般・膝関節)	専門外来(予約制) 藪田 健太郎 膝関節外来	藪田 健太郎 (一般・膝関節)		林田 賢治 (一般・肩関節)
	藪野 互平 (一般・股関節)	藪野 互平 股関節外来 手術説明・自己 血(予約制)			藪野 互平 (一般・股関節)	藪野 互平 股関節外来 専門外来(予約制)		坪田 次郎 手術説明(予約制)			
婦人科	橋本 佳子		松本 貴 (予約初診)	手術説明	細川 有美			交代 (14:00~)	相本 法慧		松本 貴 (予約初診・ セカンドオピニオンのみ)
			細川 有美 相本 法慧					手術説明			交代 (予約初診)
皮膚科	平野 亜由子 (10:00~12:00)						月野 暁彦		月野 暁彦	平野 亜由子 (11:00~13:00)	月野 暁彦
皮膚科 形成外科	月野 暁彦		月野 暁彦	月野 暁彦 (予約制)	月野 暁彦						
泌尿器科	木内 寛	関井 謙一郎 (予約制)	関井 謙一郎 (予約制)	関井 謙一郎 (予約制)	木内 寛	関井 謙一郎 (予約制)	交代		惣田 哲次	交代 (予約制)	交代
	惣田 哲次				宮田 勇士				宮田 勇士 (精索静脈瘤・男 性不妊・性功能)		
ウロギネ センター		惣田 哲次 (予約制)		関井 謙一郎 (予約制)		木内 寛 (予約制)				木内 寛 (予約制)	
耳鼻咽喉科 /難聴外来	白石 功		白石 功		白石 功				白石 功	白石 功 一般外来 13:30~	白石 功 (13日) (予約制)
		(めまい・難 聴検査) (予約制)		(めまい・難 聴検査) (予約制)		(めまい・難 聴検査) (予約制)	(めまい・難 聴検査) (予約制)	(めまい・難 聴検査) (予約制)			
脳神外来/ 脊椎外来			高崎 盛生 (1・3・5週) 本郷 卓 (2・4週) 脳神経外来 (予約制) 9:30~		川口 正一郎					森脇 崇 13:30~ 脊髄外来 (頸部痛・腰痛・ 成人脊柱変形)	
	EX			EX	EX	EX	EX	EX	EX		
眼科	担当医 (9:00~11:00) (初診・薬のみ)		井上 由美子 長谷川 琢也	長谷川 琢也 網膜硝子体外来 (予約制)	担当医 (予約制)	塚本 浩子 /塚本 裕次 (13:30~) (予約優先)	井上 由美子		井上 由美子	長谷川 琢也 網膜硝子体外来 (予約制)	井上 由美子
		交代		交代						交代	交代
放射線科	CT/MRI等の検査ご依頼は随時承ります。										

受付時間：月～金 AM8:30～11:30 PM12:30～15:00

第2・第4土曜日 AM8:30～11:30

土曜日の診察は第1、第3、第5週は休診です。

※土曜日は婦人科一般診察は行っていません。

受付時間は診療科によって変更になることがあります。

※診察は原則予約制

令和6年4月1日～

病院年報 第4号
令和6年6月発行

発行 医療法人伯鳳会 大阪中央病院

編集 病院年報委員会

〒 530-0001 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番30号

TEL 06-4795-5505

FAX 06-4795-5544

URL <http://www.osaka-centralhp.jp/>

